週刊 YEARBOOK

1972
昭和47年

日録20世紀

4|1
平成9年4月1日発行
(毎週1回発行)第1巻第7号
¥550
講談社

連合赤軍「浅間山荘」事件

北京秋天、日中国交回復の"乾杯!"
27年ぶりに沖縄、日本に還る
テルアビブとミュンヘン五輪「血の惨劇」

日本中が中継に見入った銃撃戦の衝撃！
連合赤軍、「浅間山荘」籠城の10日間

この年、沖縄復帰、日中国交回復と、戦後の大きな課題が解決されたが、最も人々の耳目を集めたのは、2月28日の「浅間山荘」をめぐる攻防戦だった。そして連合赤軍の凄惨なリンチ事件は、世間に大きな衝撃を与えた。彼らをこうした行動に駆り立てたのは、一体何だったのか。

▼連合赤軍が籠城した河合楽器の保養所「浅間山荘」。管理人・牟田郁男氏の妻、泰子さんが人質になった。共同通信社

警官二人が殉職した八時間におよぶ攻防

「我々は、まもなく泰子さん救出のため突入する」――二月二八日午前九時五〇分、野中庸長野県警本部長は、連合赤軍派に最後通告を突きつけ、行動開始の指令を発した。

午前一〇時、連合赤軍の五人――坂口弘（二五）、吉野雅邦（二五）、坂東国男（二五）、少年二人――がたてこもる長野県軽井沢町の河合楽器保養所「浅間山荘」に、警官隊が突入を開始。武装した一五〇〇人の警官がかたずをのんで見守る中、ガス弾を打ちこみ、クレーン車に据えつけた二トンの鉄球で山荘の壁を破壊した。その後、警視庁第二、第九機動隊で編成された三〇人の突撃隊が、後方から発煙筒と放水の援護を受けながら、山荘の一階と三階から内部へ入りこんだ。

三階の一室と屋根裏にこもった連合赤軍は、ライフル銃、猟銃、手製爆弾で激しく応戦、警官二人が死亡、警官五人が重軽傷を負う。

警官隊が突入して約八時間後。午後五時五〇分に、玄関の東にある「いちょうの間」に突撃隊の一〇人に続き、第九機動隊がなだれこんだ。連合赤軍の五人のメンバー全員は、管理人の妻で人質となっていた牟田泰子さん（三一）とともに

▲2月19日から「浅間山荘」にたてこもっている連合赤軍に対し、2月28日、機動隊による一斉攻撃が開始された。共同通信社

◎表紙　「浅間山荘」の連合赤軍。時折、警官隊めがけて発砲した。朝日新聞社

▲榛名山南面のリンチ遺体発掘現場。連合赤軍が多数の仲間を殺害していたという事実は世間に衝撃を与えた。 毎日新聞社

屋根裏に追いつめられた。屋根裏から再び、「いちょうの間」に降り、ふとんの中にうずくまっていた泰子さんが、無事救出されたのに続いて、午後六時一五分連合赤軍のメンバー全員が逮捕され、びしょぬれになって報道陣の前に姿を現したのは午後六時二一分だった。

この日、各テレビ局は大幅に番組を変更し、現場中継を夕方まで流し続けた。NHKの九時四〇分～二〇時二〇分の連続放映（途中、五分間ニュースを三回挿入）をはじめ、民放もCM削減という異例の措置で現場の生々しい光景を放映、累積到達視聴率は九八・二％に達した。

実力闘争の開始から「浅間山荘」までの足跡

連合赤軍は、昭和四六年七月一五日、共産主義者同盟赤軍派中央軍と、日本共産党革命左派神奈川県常任委員会（京浜安保共闘）人民革命軍が合同して結成された。京浜安保共闘は、四二年の日本共産党と中国共産党の対立から、共産党を離れたメンバーを中心に「銃口から政権が生まれる」という毛沢東思想を背景に結成直後から過激な実力闘争を開始、交番襲撃事件などを繰り返す。一方、赤軍派は〝M（マネーの頭文字）作戦〟を展開、郵便局や銀行などを襲撃した。

京浜安保共闘は「反米愛国」、赤軍派は「世界同時革命論」と革命理論上の違いは大きく、一種の政治的野合とも言えるものであったが、「銃によってしか建党・建軍できない」とする点で一致、都市での取締りが厳しくなると、南アルプスなどの山岳地帯に根拠地を設営、軍事組織の強化へと突き進んでいった。

そして両派は、昭和四六年一二月に南アルプス山麓の山梨県新倉で、その後、群馬県の榛名山で合同訓練を実施する。この動きを警察側は見逃さなかった。群馬、山梨、埼玉、長野の各県警は大規模な山狩りを敢行。翌年一月八日に西丹沢アジトを発見、二月一七日には逃走中の最高幹部、永田洋子（二七）と森恒夫（二七）を妙義山中の穴蔵で逮捕、迦葉山アジトからは爆弾材料や一〇〇万円近い現金が発見された。

一九日には、残ったメンバーのうち、植垣康博（二五）ら男女四人が国鉄・軽井沢駅で逮捕され、さらに残りの五人は軽井沢の別荘「さつき山荘」で発見され、警官隊との銃撃戦の後、数百メートル離れた「浅間山荘」に逃げこみ、六挺の銃を持って警察側と対峙したのである。

計一四人にもおよんだリンチ殺人事件の全貌

彼らは自分たちの武装蜂起が、各地の武装闘争を生み出すことを期待した。しかし、それは幻想にすぎず、「浅間山荘」での一〇日間におよぶ籠城と銃撃戦は敗北に終わった。

そして三月七日、永田洋子と森恒夫の自供から、群馬県の山林で、リンチで殺された男性の遺体を発見、連合赤軍が行った凄惨なリンチ殺人が明らかになった。連合赤軍結成直後の四六年一二月から四七年二月にかけて「赤軍兵士の規律に反した」ための「総括」という名目で、一二人が次々に「粛清」されていたのだ。また四六年八月、千葉県印旛沼で、京浜安保共闘が、メンバー二人を殺害していた事実も判明した。同じセクトの「同志」に対するリンチ殺人という事実は、世間に大きな衝撃を与えた。

連合赤軍をこうした行動に走らせた要因はどこにあったのか。当時、新左翼運動に健筆をふるった帝京大学教授・高木正幸氏は、次のように語っている。

「連合赤軍は、全共闘運動敗北後、新左翼が政治的ショックをねらって強めた直接行動、武装闘争路線の極として生まれた。運動が大衆性を失って孤立し、組織が追い詰められて、なお飛躍を求めようとすれば、思考と戦術が末端肥大的に尖鋭化してゆく。連合赤軍の誕生と瓦解は、その当然の帰着だった。運動が独善化し、密室化することの危険性は、オウム真理教にも通じて言えることだろう」

まさに行くべきところに行き着いたのが、この「浅間山荘」事件だった。そして、その後、新左翼運動は急速にパワー・ダウンする。

高木正幸「新左翼三十年史」より

新左翼は昭和30年の第6回全国協議会で武装闘争方針を撤回した日本共産党の革命戦略に対する反発、対立の中から生まれた。当初「反代々木系」と呼ばれていたが、60年代後半のベトナム反戦闘争、全共闘運動を経る中で武装化を強める一方、闘争戦術をめぐり、抗争・分裂を繰り返し、現在27～28派が活動を続けている。

▲2月17日、妙義山中の穴蔵にひそんでいた森恒夫と永田洋子が逮捕された。朝日新聞社

田中首相、六日間の「決断と実行」 〝乾杯〟で祝福! 日中国交回復の瞬間

▲25日、人民大会堂で開かれた夕食会で、みずから料理を取り分けて田中首相に勧める周首相。毎日新聞社

昭和四七年九月二五日、特別機で北京入りした田中角栄首相は、空港に中国の周恩来首相の出迎えを受け、堅い握手を交わした。この光景を、「四〇年も続きに続いた痛恨の時間の流れは、このときついに止まった」(朝日新聞)と、同行記者は描写している。大任を終え、三〇日午後一時五分、羽田に着いた首相は、記者会見で「この重大な使命の達成は、国民各層の支援のたまもの」と挨拶した。

毛主席との会談を終えて鼻血を流した田中首相

田中首相(五四)は、九月二五日、午前一一時三〇分、大平正芳外相、二階堂進官房長官らとともに、北京空港に到着。午後には早くも人民大会堂で第一回の会談が行われた。その後の宴会で田中首相は、「中国国民に多大のご迷惑をおかけした」とお詫びの言葉を述べたが、それは戦前から続いた両国の不幸な歴史に終止符が打たれた瞬間だった。周首相自慢のマオタイ酒がふるまわれ、「乾杯」の声が宴席に響き渡る。

首脳・外相会談は、周首相、姫鵬飛外相との間で、合わせて七回繰り返された。会談では「驚くほど率直に」それぞれの基本的立場や考え方についての意見交換がなされ、事前の調整が功を奏して、交渉は急ピッチで進む。

三日目の二七日夜、予定になかった毛沢東主席との会談が実現した。「もう喧嘩はすみましたか。喧嘩をしてこそ、初めて仲良くなれます」と毛主席は、田中首相らに言い聞かせるように語りかけ、『楚辞集注』六巻を贈った。

最後に首相が、「毛主席の末永きご健康をお祈りします」と言うと、主席は、「リューマチで足が少々弱くなりました」と答えた。同席した二階堂官房長官によると、二人は「昔から知っている先輩と後輩が話し合うような、なごやかさだった」という。

その夜、毛主席との会談を終えて迎賓館の自室に戻った田中首相は、緊張と興奮のためか、大量の鼻血を流した。そばにいた随員があわてて冷やしたタオルをあてがうと、田中は言った。

「鼻血ブーだなんて書かれるから、新聞記者には言うな」

この会談を機に、交渉は一気に進展し、国交回復という目的にそって双方の一致点をまとめた日中共同声明が、毛・田中会談の二日後の二九日午前一〇時二〇分、調印されるにいたる。

共同声明案に目を通して「行く、おれは行くよ」

この年の二月、米国のニクソン大統領が訪中し、平和共存と将来の外交関係樹立などを織りこんだ米中共同声明を発表(国交樹立は昭和五四年一月)。突然の米中接近は世界を驚かせた。それまで台湾政府を「中国の代表」とみなしてきた日本の外交政策にとっても大きな打撃になった。

七月五日、自民党総裁に選出された田中角栄は、記者会見で「(日中関係の)

▶9月27日、3回目の首脳会談を前に、一行は万里の長城を見学。田中首相は、ゴルフで鍛えた健脚ぶりを示した。朝日新聞社

正常化に取り組んでいく」と表明。

しかし、党内の「台湾派」の抵抗は根強かった。その時、表立って動けない政府を助けたのが、公明党の竹入義勝委員長だった。竹入訪中団は七月二七日、周恩来首相と会談した際、共同声明案を提示された。八月三日に帰国した竹入委員長は、田中首相を訪ね、日中友好、国交正常化を骨子とした共同声明案、周首相との議事録を見せた。それにじっくり目を通してから、田中首相は言った。

「君、これは間違いないんだな。行く、おれは行くよ」

「決断と実行」をキャッチフレーズに掲げて就任した首相は事を急いだ。それに慌てたのが米国だった。戦後一貫して米国の傘の下にあった日本外交が、その枠からはみ出そうとしているからだ。キッシンジャー米大統領補佐官が、八月一八日に来日。

「なぜ、そんなに訪中を急ぐのか」と牽制する補佐官に対し、「日本と中国の関係は、米中のつきあいよりはるかに古い」と首相は答えた。

八月三一日から、ハワイでニクソン大統領と行った日米首脳会談でも、首相訪中が焦点になったが、ニクソンは田中の強い決意を翻させることはできず、「不同意の同意」に甘んじるほかなかった。

「日中共同声明」調印後、焦点となっていた台湾との外交関係は消滅し、同時に日本と中国の「戦争状態」もこれで終結した。

関係正常化は、財界の意思でもあり、ニクソン訪中後、三井、三菱など旧財閥グループは相次いで中国進出を表明していた。国交回復後の一一月、稲山嘉寛（新日鉄社長）を会長とする日中経済協会が設立され、貿易額は四七年の輸出入総額一一億㌦が四八年には二〇億㌦、四九年には三三億㌦と急伸し、人的交流も活発になっていく。

それから二〇年後の平成四年八月二七日、脳梗塞に倒れ、政界を引退した田中元首相は、中国から「中日の井戸を掘った大事な友人」として招かれた。翌二八日、人民大会堂で歓迎の宴が開かれ、李鵬首相が「あの時、（周恩来と）二人でよくマオタイ酒を飲まれたそうですね」と話しかけると、元首相は感慨深げに深くうなずき、不自由な手に持ったマオタイ酒をぐっと飲み干したという。

▲毛主席と田中首相の会見は、北京市中南海にある毛主席宅の書斎で行われ、政治の話は抜きにした、くつろいだ雰囲気のものだったという。　共同通信社

▼歴史的な共同声明に署名する周首相と田中首相。長かった断絶にピリオドが打たれた。

読売新聞社

女たちの肖像
流行語にもなった『恍惚の人』で有吉佐和子の新境地

稲葉真弓

この年、老人問題を描いた一冊の本がミリオンセラーとなり巷の話題をさらった。有吉佐和子（四一）の『恍惚の人』がそれである。八四歳の老人が、妻の死とともにボケて異物になっていく様子をシリアスに描いた作品は、長寿時代を迎えた社会に他人事ではない波紋を投げかけ、流行語になるほど強烈なインパクトを与えた。

印税は一億余円と言われたからその売れ行きのほどが知れるが、実は有吉佐和子はこの本を書きあげた後、「いやなことを書いたから、読者が離れていくかもしれない」とひどく落ちこんでいたという。ところが蓋を開けてみたら、あまりの反響のすさまじさに今度は神経衰弱のようになり、二ヵ月ほど入院。世間の評価に比べ、文壇が冷たかったこともショックのひとつだったと後に語っている。同時に有吉は「自分のエポックメイキングになった作品だ」とも語っているが、その言葉どおり、続いて彼女は農薬や食品公害などに鋭く切りこんだ『複合汚染』を発表、この作品は企業の食品公害対策をうながすきっかけにもなった。

有吉佐和子は、昭和六年和歌山市に生まれ、昭和三一年、『地唄』で文学界新人賞候補、芥川賞候補となったが、どちらも次点だった。が、昭和三四年、故郷・紀州を舞台にした家系小説『紀ノ川』で文壇的地位を確立すると、『香華』（婦人公論読者賞）、『一の糸』、『華岡青洲の妻』（女流文学賞）など怒涛のような勢いで発表、いずれもベストセラーに躍り出た。

だが、彼女の私生活は多事多難だった。三〇歳の時青年実業家と婚約したが気鋭のプロモーター、神彰の熱烈な求婚にあい婚約を解消、神と結婚して一児をもうけるが、二年後協議離婚。神は後に「彼女にとって、生きるということは書くためなのである。書くためにのみ生きる」と述べたが、ひたすら書き、自作の舞台演出に走りまわり、娘の玉青を溺愛した。獅子奮迅の活躍、ひたむきな母親ぶりは玉青の手記に詳しいが、四〇代なかば、更年期障害による低血圧と不眠に悩まされるようになり、睡眠薬を常用。あまりの肉体的苦痛に「今度は更年期をテーマに書く」とまで宣言していたという。

昭和五九年夏、五三歳で急逝。就寝中の突発的な心不全によるものだった。

▲"才女"の名をほしいままにした有吉左和子。

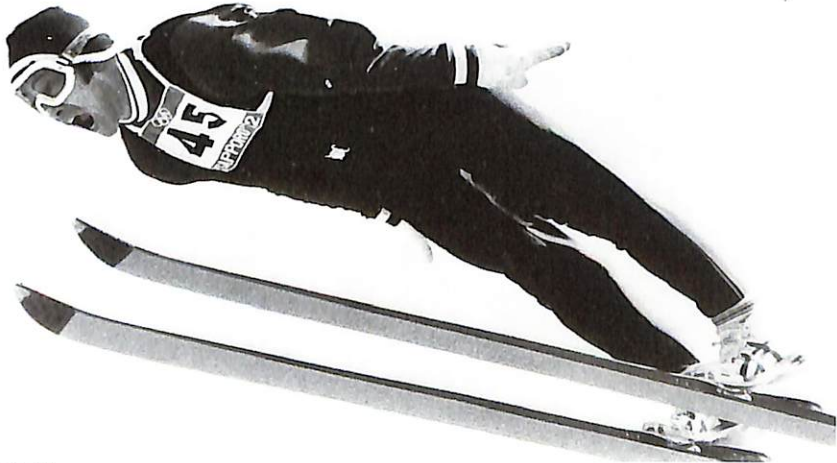
勝者・敗者
札幌でメダル独占！"日の丸飛行隊"チームワークの勝利

阿部珠樹

札幌オリンピックは、アジアで初めて開催された冬季オリンピックである。東京オリンピックから八年が経過していたが、国民の間でも、オリンピック関係者の中でも、東京大会の日本勢のメダルラッシュの記憶はまだ生々しかった。

しかし、大会前から金メダル確実と言われる種目を数多く抱えていた東京大会と違い、札幌大会では、メダルを期待できる種目は少なかった。実質的に期待をかけられるのは純ジャンプしかなかった。純ジャンプの代表選手は、異様なほどの期待と重圧の中で、本番を迎えていたのである。

大会四日目の二月六日、七〇㍍級純ジャンプが始まった。宮の森シャンツェの天候は快晴、風も弱く、絶好のコンディションである。

日本勢の先陣を切って、金野昭次が飛び出した。「カミソリ金野」と呼ばれる鋭い踏み切りは、本番でも健在だった。八二・五〇㍍。続くベテランの青地清二も八三・五〇㍍と上位につける。最後はエースの笠谷幸生（二八）。最長不倒の八四㍍を記録して、トップに立つ。一本目を終わった時点で、日本勢がメダルを独占してしまう可能性も出てきた。

二本目も日本勢は好調を保った。オリンピック用に新設された宮の森シャンツェでみっちり練習を積んだ地元の利が、本番でみごとに生かされたのだ。すべての選手が飛び終えた時、電光掲示板の上位には、笠谷、金野、青地の三人の名前が並んでいた。金、銀、銅の独占は、東京オリンピックでもなかった快挙だった。

後に笠谷は、快挙の原因を聞かれると決まってチームワークを強調した。

「前の二人がメダル圏内に入り、自分も気持ちが楽になって飛べた。個人競技でもチームワークがいいと、ああいうことがあるんですね」

だから、金メダルは三人に与えられたものというのが、笠谷の正直な気持ちだったのである。

◀エース笠谷のジャンプ。冬季五輪史上、日本が金メダルを獲得したのは初めてだった。

時事通信社

WWP

▼**激化する東京ゴミ戦争(1月)**美濃部都知事は、ゴミ処理場の建設を計画中の杉並区上高井戸地区の反対同盟と29日、話し合い解決をめざして初めて対話。写真は反対同盟の見張り塔。

毎日新聞社

▲**「クイーン・エリザベス号」炎上・沈没(1月9日)**海上大学船に改装するため香港に停泊中の事故。1968年(昭和43)引退まで海の女王と讃えられた豪華客船だった。

▶**北アイルランドで「血の日曜日」(1月30日)**市民権を求めるカトリック系のデモ隊に英軍が発砲、13人が死亡。この事件がアイルランド共和国軍の運動に火をつけた。

WWP

時事通信社

▲**原健三郎労相、放言陳謝(1月17日)**2日前に兵庫県の成人式で、養老院の老人に対し、「老人ホームへ入る人は感謝の気持ちを忘れたからだ」と発言し、侮蔑的だと問題になっていた。28日、労相を辞任した。

日刊スポーツ

▲**日活ロマンポルノ摘発(1月28日)**上映中の「牝猫の匂い」など3本が猥褻とされ、映倫審査員も幇助罪で起訴されたが、東京地裁は53年、全員無罪とした。写真は東京・池袋の上映館。

▼**早大ラグビー連続日本一(1月15日)**東京の秩父宮ラグビー場で行われた第9回日本選手権で、三菱自工京都を終了3分前に再逆転。劇的な勝利だった。

読売新聞社

昭和47年1月

1(土)●勤労者財産形成促進制度(財形)が始まる。
●フジテレビ「木枯し紋次郎」の放映開始。
2(日)●札幌冬季五輪の聖火リレーが東京を出発する。
3(月)●日米繊維協定調印。対米輸出を三年自主規制。
4(火)●新宿区で死後九日の独居老人が発見される。
5(水)●吹原産業事件(40年4月)の森脇将光被告、過去最高の保釈金、四億五〇〇〇万円で出所。
6(木)●愛知県がんセンターで、血液から胎児の性別判定が八五㌫の的中率で可能、と新聞に。
7(金)●サンクレメンテで日米首脳会談。五月一五日に沖縄返還を実施の共同声明。
●千葉県市原市のチッソ石油化学五井工場で、従業員二〇〇人が水俣病患者ら一五人に暴行。
8(土)●新潟県、新たに一〇人を水俣病患者に認定。
9(日)●埼玉県警、朝霞駐屯地の自衛官殺害事件で京大助手の竹本信弘(滝田修)を別件で指名手配。
10(月)●米サンキスト、日本での合弁会社設立を発表。
11(火)●中部地方で通常の一〇〇倍の「死の灰」を検出。
12(水)●香港への旅行者、日本が米国抜き一位と判明。
13(木)●経団連首脳が米に「核の傘代」払うべきと発言。
14(金)●大阪市の淀屋橋全面(幅四八㍍)が横断歩道に。
15(土)●原労相、成人式で老人侮蔑発言(28日辞任)。
16(日)●初の日朝友好促進議員連盟代表団が羽田出発。
17(月)●全国八六大学が学費値上げで紛争中と警視庁。
18(火)●大阪府、府下の「にせ医師」は一九人と発表。
19(水)●宮崎県医師会、高千穂町土呂久で住民から砒素を検出と報告(48年2月公害病に指定)。
20(木)●三重県知事、大日嵓ダムの建設を断念と発表。
21(金)●練馬区で不発の一トン爆弾を二六年ぶりに処理。
22(土)●志布志湾で五千余人が漁船八百余隻で石油コンビナート阻止の集会とデモを行う。
23(日)●訪朝中の日朝議連、貿易拡大の合意書に調印。
24(月)●元日本兵・横井庄一、グアム島で保護される。
25(火)●東京二三区最大の高島平団地で入居開始。
26(水)●立川市議会、自衛隊立川移駐反対を撤回する。
27(木)●東京・成城署、怪獣ブームでにせウルトラマンなどを製造・販売した業者の捜査を始める。
28(金)●警視庁、日活ロマンポルノを猥褻容疑で摘発。
29(土)●徳島県でほら穴を掘り「横井さんごっこ」をしていた児童七人が生き埋め。うち四人が死亡。
30(日)●IOC総会でブランデージ会長が、商業主義の横行に「冬季五輪の使命は終わった」と発言。
31(月)●東邦亜鉛、カドミウム公害で業績不振のため一五〇人の人員整理など合理化策を発表。

ニュース・ファイル 1972

フォト＋日録で再現する366日

元日本兵・横井庄一の生還と「浅間山荘」の銃撃事件で始まったこの年、七月には「日本列島改造論」を掲げる田中内閣が、記録的な支持率を得て船出した。それは、土地神話によりかかったバブル経済への道を、日本が走り始める第一歩であった。

◀**北陸トンネル内列車火災(11月6日)**国鉄北陸本線敦賀―南今庄間で大阪発青森行きの急行「きたぐに」が食堂車から出火して停車、火がほかの客車に広がったため、トンネル内を逃げようとした乗客が煙にまかれ、死者30人、重軽傷者714人を出した。

読売新聞社

時事通信社

▲転びっぷりも人気のジャネット・リン(2月7日) 札幌冬季五輪5日目の女子フィギュア・スケートはオーストリアのシューバが金だったが、途中転倒して銅になった米国のリンが一躍人気になった。

▶パトカー、火炎びんで炎上(2月14日) 京都の龍谷大で過激派による入学試験妨害を警戒中、7、8人の学生が投じた火炎びんのうち2、3本がフロントガラスを破って炎上、警官2人が重傷を負った。

読売新聞社

▼米中国交回復(2月21日) ニクソン米大統領が中国を訪問、北京で毛沢東主席ら首脳と会談、27日には共同声明を発表して世界中を驚かせた。写真は25日の晩餐会で乾杯するニクソン(左)と周恩来。

読売新聞社

▲東名で31台が玉突事故(2月1日) 静岡県裾野市の東名高速道路下り線でスリップしたトラックに後続の車が次々に追突、6台が炎上し2人が死亡、23人が重軽傷を負った。現場は雨と霧で視界不良だった。

▼大原美術館の名画戻る(2月6日) 主犯が逮捕され、前々日に共犯3人から押収した3点とともに、盗まれた絵画5点が戻った。写真は主犯が隠していたルオーの「道化」(右)とゴッホの「アルプスへの道」。

毎日新聞社

共同通信社

▲和歌山県白浜でホテル全焼(2月25日) 政府登録国際観光旅館の椿グランドホテルで、3棟1万946平方メートルを焼失、宿泊客3人が焼死した。火元は調理室で、煙の感知器をつけていなかった。

昭和47年2月

1(火) ●裾野市の東名高速で三一台が衝突。二人死亡。
●郵便料金値上げ。葉書一〇円、封書二〇円に。
2(水) ●福岡市の女性問題研究会調査で女子高生の六四%は結婚か出産での退職を希望、と新聞に。
3(木) ●冬季オリンピック札幌大会開幕(~13日)。
4(金) ●東京外為で円が急騰。一ドル=三〇七円七〇銭。
5(土) ●六大都市でタクシー代値上げ。東京で四三%。
6(日) ●札幌五輪七〇メートル級ジャンプで、笠谷幸生ら日本の三選手が一・二・三位を独占。
7(月) ●国防会議、第四次防衛力整備計画大綱を決定。
8(火) ●公取委、化粧品業界作成の広告自主規制案を了承。「肌を白くする」などの表現をやめる。
●広島営林署、石油コンビナートの煤煙などで枯死した宮島の松を二万本伐採したと発表。
9(水) ●日米通商協議妥結。ガットで交渉継続を確認。
10(木) ●閣議、バングラデシュ人民共和国を承認。
●運輸省、成田新幹線の工事実施計画を認可。
11(金) ●パリ郊外で「インドシナ人民の平和と独立のための世界集会」を開催。七五ヵ国から参加。
12(土) ●西鉄、盲導犬の電車、バスへの乗車を認める。
13(日) ●東京でマンションの日照権侵害に反対集会。
14(月) ●農協中央会などが宅地並み課税反対全国大会。
15(火) ●環境庁と東京都が、地盤沈下防止のため都内全域でのビル用地下水の汲み上げ禁止を決定。
16(水) ●ネズミ講の第一相互経済研究所所長・内村健一を二〇億一四〇〇万円の脱税容疑で逮捕。
17(木) ●連合赤軍の森恒夫と永田洋子、群馬県で逮捕。
18(金) ●閣議、軽自動車の車検制度導入を決定する。
19(土) ●連合赤軍、軽井沢町の「浅間山荘」に籠城。
●岩見沢市の朝日炭砿でガス噴出。九人死亡。
20(日) ●東京の大井競馬場、競走馬の流感で一月以来中止していたレースを再開(中央競馬は26日)。
21(月) ●ニクソン米大統領が中国を訪問(~28日)。
22(火) ●東京都衛生研究所、食品など九七品目の分析で五一品目からPCBを検出と発表する。
23(水) ●新潟県沖で日産約一〇〇〇バレルの油田を確認。
24(木) ●日本とモンゴル人民共和国が国交を樹立。
25(金) ●江戸川区で成田新幹線通過反対協議会結成。
26(土) ●日仏原子力平和利用協力協定に調印する。
27(日) ●ニクソン米大統領と周恩来中国首相、平和五原則の共同声明(上海コミュニケ)を発表。
28(月) ●「浅間山荘」に警官隊突入。
●銅価格下落で愛媛県の別子鉱山が閉山と決定。
29(火) ●通産省、回収不能製品へのPCB使用を禁止。

共同通信社

▶名古屋で呉服スーパー全焼(3月30日) 中心街栄6丁目にあるユニー栄さが美センターで、1階売り場の天井付近から出火、6階建てビルを全焼し、店員2人が焼死した。大雨で客がいなかったため死者2人にとどまった。

◀さようなら横浜市電(3月31日) 70年にわたって運転されてきたが、道路の過密と累積赤字のため、トロリーバスとあわせて廃止になった。写真は最終の市電。

浜口タカシ

毎日新聞社　毎日新聞社

▶「お竜さん」さようなら(3月31日) 東映「緋牡丹」シリーズで人気の藤純子(26)が、歌舞伎俳優・尾上菊之助(29)と東京のホテルニューオータニで挙式。藤は女優を引退した。

◀外務省公電漏洩事件(3月27日) 社会党が沖縄返還交渉の日米密約を暴露。警視庁は、4月4日資料を提供した毎日新聞・西山記者(中央)らを逮捕した。

読売新聞社

▶新幹線、岡山に延びる(3月15日) 山陽新幹線の新大阪－岡山間180キロが開通。東京とは4時間10分で結ばれることになり、東西がぐんと近くなった。写真は姫路市内を行く新幹線。

◀富士山で24人が凍死(3月20日) 日本列島を縦断した春嵐の影響で、猛吹雪と豪雨に見舞われた富士山では、連休を利用した山岳パーティーが次々に遭難した。写真は4合目付近で収容された11人の凍死体。

朝日新聞社

昭和47年3月

1(水) ●婦人団体が公共住宅の大量建設を求め集会。
2(木) ●仏大使館、「シャンパン」「コニャック」の名称を日本製品に使わないよう外務省に要求。
3(金) ●物価対策閣僚審議会、円切り上げによる輸入差益を消費者に還元するための強化策を決定。
4(土) ●日米渡り鳥保護条約に調印(49年9月発効)。
5(日) ●安中市のカドミウム公害の被害者が、東邦亜鉛に対し損害賠償訴訟を起こすと発表。
6(月) ●東芝がUHF用超高周波トランジスタを開発。
7(火) ●群馬県下仁田町で連合赤軍によるリンチ殺人の遺体を発見(13日までに一二遺体)。
●防衛庁、陸自航空部隊の宇都宮から立川基地への移駐を強行(8日、都知事が中止要求)。
8(水) ●外務省、中国に対し尖閣諸島の領有権を主張。
9(木) ●経済審、新長期計画は生活優先に転換と報告。
10(金) ●日本原研、トカマク型核融合基礎装置を完成。
11(土) ●文部省、大学設置審に大学制度改善策を諮問。
12(日) ●流行の「ポリ袋美顔法」で神戸市の女性窒息死。
13(月) ●スモン調査研究協議会、スモン病の原因はキノホルム剤の服用によるとの結論を出す。
14(火) ●中国産葉タバコの輸入契約(初の覚書貿易)。
15(水) ●山陽新幹線の新大阪－岡山間が開業する。
16(木) ●中央公害対策審、初の海洋投棄基準を答申。
17(金) ●製薬業界が広告に使用上の注意を記載と決定。
18(土) ●保坂展人ら、高校入試不合格は中学内申書の「中学全共闘」の記載が原因と東京都を提訴。
19(日) ●立川市で自衛隊の立川移駐反対の決起集会。
20(月) ●富士山で遭難続発。二四人死亡。
21(火) ●奈良県の高松塚古墳で彩色壁画が発見される。
22(水) ●東京地裁、ポルノは自費出版でも有罪と判決。
23(木) ●東京湾で海上交通安全法案反対の漁船デモ。
24(金) ●東京地裁、勤評拒否で免職の校長の請求棄却。
25(土) ●法務省、終戦後に旧日本軍の敵前逃亡罪を適用されたものへの法的救済は困難と表明。
26(日) ●厚生省、乳児への種痘接種を任意にと決定。
27(月) ●社会党、衆院予算委で沖縄復帰めぐる米政府との密約を記した外務省の極秘公電を暴露。
28(火) ●船橋駅で後続電車が追突。七五八人重軽傷。
29(水) ●東京都、多摩川全流域を鳥獣保護区に決める。
30(木) ●宮内庁長官、天皇陵の発掘は拒否すると答弁。
●全国農業協同組合連合会(全農)が設立される。
31(金) ●前日からの「春嵐」のため、日本海で海難事故が五〇件発生。二五人死亡、八八人不明。
●札幌地裁、タイピストの白蝋病を職業病認定。

読売新聞社

▲京大入学式に黒ヘル乱入(4月11日)開会直後に約70人が「入学式粉砕」を叫んで演壇を占拠、式辞を読む前田学長はマイクを奪われた。式は5分で幕、新入生から「帰れ、帰れ」の声が起きた。

読売新聞社

▲首都圏、交通ゼネストに突入(4月23日)国労・動労、私鉄大手・中小組合が賃上げなどを要求して一斉ストに突入、交通ゼネストになった。中止指令は私鉄が昼前、国鉄は深夜11時だった。写真は東京駅の新幹線ホーム。ストで乗客は少なく通常の1~2割だった。

▼沖縄デーで反戦自衛官が演説(4月28日)東京・芝公園の新左翼系の決起集会に、5人の現職自衛官が登場し、「沖縄への派兵反対、隊内で得た技術は人民のために」などと演説。後に防衛庁は全員を懲戒免職にした。

読売新聞社

▼KCIA、風刺詩「蜚語」の著者・金芝河を連行(4月12日)作品で朴韓国政権を強烈に批判したためで、この年の3月から姿を隠していた。

毎日新聞社

▼チャップリン、米国へ凱旋(4月10日)共産主義者のレッテルを貼られてスイスに移ったチャップリンが特別賞受賞のため、アカデミー賞授賞式に出席、20年ぶりの米国入り。

WWP

昭和47年4月

1(土)●札幌・川崎・福岡三市が政令指定都市になる。●米の統制価格が自由化され標準米価制になる。●自治医科大学が発足。過疎地の医師不足対策。

2(日)●立川涼・愛媛大助教授、都民の遺体から最高一〇ppmのPCB検出との解剖結果を発表。

3(月)●動労、処分に反対し無期限の順法闘争に突入。

4(火)●警視庁、外務省公電漏洩(3月27日の予算委)で、外務省事務官と毎日新聞記者を逮捕。

5(水)●ロンドンで立教英国学院(小学校)が開校。

6(木)●東京―釧路間にカーフェリー「まりも」就航。

7(金)●日本生態学会、米の枯葉作戦中止要求決議。

8(土)●化粧クリームの原価率四・六%と主婦連発表。

9(日)●沖縄の全軍労、一ヵ月以上続いたストを一〇日で中止と緊急指令。

10(月)●七九ヵ国が生物兵器禁止条約に調印する。●小柳ルミ子「瀬戸の花嫁」のレコード発売。

11(火)●大阪地裁、国労の日韓条約反対ストに無罪。

12(水)●草月流家元の勅使河原蒼風に脱税で有罪判決。

13(木)●社会党、米海軍と海上自衛隊は合同核部隊編制の秘密協議をしたと衆院で政府を追及。

14(金)●日銀、創業以来初の赤字決算を政策審に報告。●海員組合の外航部門がスト突入(翌日内航も)。

15(土)●公取委、石油化学業界の不況カルテルを認可。

16(日)●川端康成、逗子市のマンションでガス自殺。●米軍、北ベトナムへの全面爆撃を再開。

17(月)●国防会議、沖縄への自衛隊配備計画を決定。●市川崑、ミュンヘン五輪映画の監督を承諾。

18(火)●厚生省、種痘接種廃止の防疫整備方針を決定。

19(水)●新日鉄、四八年採用を例年の三分の一と内定。

20(木)●大蔵省、タバコに「吸いすぎ注意」の表示決定。●電力長期計画決定。原子力中心の「原主火従」。

21(金)●バスの新運賃制を発表。二年ごとの値上げへ。

22(土)●在日米軍の反戦米兵らがベトナム反戦の声明。

23(日)●鹿島灘沿岸に約一トンの死魚が漂着する。

24(月)●火炎びん使用等処罰法公布。製造などに罰則。

25(火)●東京都、新規登録の米穀販売店二六三店を発表。百貨店や量販店など大型店はほぼ却下。

26(水)●財団法人余暇開発センターが設立される。

27(木)●東京地裁、三島事件(45年11月)に実刑判決。●自衛官五人が防衛庁に沖縄配備反対など要求。

28(金)●日本図書館協会が初の『図書館白書』発表。人口一〇万以下の都市の図書館設置率は六二%。

29(土)●第一回外洋ヨットレース(那覇―東京間)開催。

30(日)●私鉄総連の中小九六組合が賃上げで終日スト。

証言・あの日この日

石川達三(66)

1月28日(金)〈三船敏郎がアリナミンと、森繁久弥が胃腸薬キャベジンと、提携することは少しもかまわない。彼等の職業はそれ自体が自己宣伝と密着し、商業宣伝と密着しているのだ。しかし某作家がテレビ・コマーシャルに顔を出しているのを見ると、私とは考え方が違うのかな、と思う。もっと若い作家たちはもっと違うかも知れない〉(石川達三『流れゆく日々』)

作家は終生アマチュアでなくてはならないと石川は言う。テレビのCMや雑誌の広告に登場することも極力さし控えるべきだと。こういう考えは、札幌冬季オリンピックのスキー選手のアマチュア資格問題から連想された。スケートで優勝したソ連ペアを見て、「もはやスポーツではない。見ていて不快を覚える。これはまさにショウである」(2月8日)と書き記す。　(坪内祐三)

▶米ソ首脳、やっとSALTに調印(5月26日)1969年以来7回目の戦略兵器制限交渉。写真は調印後に、クレムリンで握手するニクソン(左)とブレジネフ。

▼沖縄、不安なスタート(5月15日)ドル経済から円経済になったが、円ドル交換レートを305円におさえられ、物価が上昇、写真は円・ドル両方を持って買い物する県民。

時事通信社

▼千日デパート火災で118人死亡(5月13日)大阪の繁華街ミナミのビルで2~3階を全焼、火傷のない犠牲者が多く、化学繊維や新建材による有毒ガスが原因と指摘された。

読売新聞社

◀新潟港で浚渫船が爆発(5月26日)船は1時間後に沈没、死者2人、重軽傷者37人を出した。現場の信濃川河口付近は戦時中に米軍が大量に機雷を投下した場所で、海上保安庁は磁気機雷によると断定した。

▼関脇・輪島が初優勝(5月28日)東京・蔵前国技館の大相撲夏場所で12勝3敗で優勝、殊勲賞も獲得した。貴ノ花、魁傑らとともに若手台頭を印象づけた。写真はパレード後、阿佐谷の花籠部屋に到着した輪島。

朝日新聞社

昭和47年5月

1(月)●四七年度の"長者番付"で、土地譲渡所得者が一〇〇人中九四人を占める。

2(火)●全身麻酔で抜歯し幼女死なせた歯科医に有罪。

3(水)●前夜来の寒波で北アルプスなどで遭難が続出。

4(木)●日弁連、少年法改正要綱に全面反対の意見書。

5(金)●東京・渋谷で第一回五月リブ大会を開く。

6(土)●田子ノ浦港のヘドロ浚渫、九〇万トン残し終了。

7(日)●ストリッパー・一条さゆり、公然猥褻で逮捕。

8(月)●厚生省、PCB汚染された母乳の調査を指示。

9(火)●大蔵省、沖縄復帰後五年間は免税価格で洋酒などを持ち帰れる、観光戻し税制を発表。

10(水)●鳴門市の板東俘虜収容所跡にドイツ館が完成。

11(木)●地婦連、後援した一〇〇円化粧品「ちふれ」が一年間で一五〇〇万個を売り上げたと発表。

12(金)●沖縄の米民政府、ズケラン基地で解散式。●新宿駅のコインロッカーで新生児の遺体発見。

13(土)●大阪市の雑居ビル・千日デパートで火災。

14(日)●秋田県能代市で深夜に火災。三三棟が全半焼。

15(月)●沖縄の施政権が返還され、沖縄県が発足する。

16(火)●筑波研究学園都市への移転機関四三が決まる。●日立、カラー複写機を公開。約二五〇万円。

17(水)●沖縄県知事、復帰便乗値上げへの対応策発表。

18(木)●大蔵省、投機的な勧誘自粛を証券四社に警告。

19(金)●生産性本部、五九%の人が仕事内容に比べ賃金が低いことに不満、との意識調査を発表。

20(土)●ベトナムから帰還途中のB52が沖縄に飛来。

21(日)●日本精神神経学会、精神病患者の同意なく脳組織を採取した東大教授に遺憾と表明する。●池田理代子「ベルサイユのばら」連載を開始。

22(月)●ニクソン訪ソ(26日戦略兵器制限協定に調印)。

23(火)●映倫、性表現の審査基準を厳格化すると決定。●与論空港建設地で反対派排除し測量を強行。

24(水)●「サッカーの神様」ブラジルのペレが来日。

25(木)●相模原の米軍補給廠からM48戦車の搬出再開。

26(金)●練馬区の中学で光化学スモッグ。一三人入院。●閣議、初の『環境白書』を了承する。

27(土)●阪大で世界最大級の電子顕微鏡が完成し公開。

28(日)●大阪あいりん地区で求人をめぐるトラブルから労働者二〇〇〇人が放火・投石して混乱。

29(月)●老後も子どもとの同居を希望する人は六五%と総理府が調査結果を発表する。

30(火)●日本赤軍、イスラエルのテルアビブ空港で自動小銃を乱射。死亡二六人、重軽傷七三人。

31(水)●公取委、沖縄の物価上昇で県内四団体に警告。

▲中原時代幕開け(6月8日)東京・渋谷の羽沢ガーデンで行われた第31期将棋名人位決定戦で、24歳の中原誠八段(左)が、大山康晴名人を4勝3敗で破り、13年間保持していた大山の名人位を奪取した。

時事通信社

ヒュン・コン・ウット(AP)/WWP

▲裸の少女が逃げてきた(6月8日)サイゴン北西にあるチャンパン村に米軍機がナパーム弾を投下、多数が死傷した。写真は燃える衣服を脱ぎ捨てて逃げてきた9歳の少女と兄たち。彼女は全身に深い火傷を負い、気を失ったまま病院に運ばれた。

毎日新聞社

▶沖縄初の県知事に屋良朝苗(6月25日)復帰後初の知事選で革新統一候補が自民党公認候補に圧勝、県議選も革新系が制した。東京、京都、大阪に続く全国4番目の革新知事が誕生した。

◀佐藤首相が「新聞は嫌いだ」の会見(6月17日)退陣表明後、首相官邸の記者会見で述べたひとことで、記者側は一斉に退席。首相はテレビカメラだけを相手に辞任の演説を続けた。

共同通信社

▶株式市場、ポンド・ショック走る(6月24日)ポンドの変動相場制移行と国際通貨危機の影響で、この日東京の外国為替市場が閉鎖されると、東京株式市場に売り注文が殺到し、ダウ平均株価は242円の暴落となった。

◀東京でまた光化学スモッグ警報(6月30日)中部地域でオキシダント濃度が基準を超え、この年13回目の発令。渋谷区の渋谷女子高では生徒30人が目の痛みなどで治療を受けた。

毎日新聞社

朝日新聞社

昭和47年6月

1(木)●道路交通法改正公布。「若葉マーク」を義務化。
2(金)●全国スモンの会、第一回総会を開く。
3(土)●瀬戸内海汚染総合調査団、沿岸部の三分の二が無生物状態かその寸前、と調査結果を発表。
4(日)●福永特使、テルアビブ空港乱射事件でイスラエルのメイア首相に陳謝(弔慰金一五〇万ドル)。
5(月)●ストックホルムで第一回国連人間環境会議。
6(火)●国立競技場の日英サッカー、全日本が一対〇で初めてプロチームに勝つ。
7(水)●銚子魚市場にカツオ五七〇トン。空前の大漁。
8(木)●将棋の中原誠、大山康晴破り最年少の名人に。
9(金)●鐘淵化学、PCB生産中止を兵庫県に通知。
10(土)●東大阪市で「軽症」と診断されていた、森永砒素ミルク被害の少女が吐血して自宅で死亡。
11(日)●田中角栄通産相、「日本列島改造論」を発表。
12(月)●英仏共同開発のSSTコンコルドが初来日。
13(火)●警視庁、世界救世教の法人認証に関する贈収賄容疑で、文化庁の係長と教団理事を逮捕。
14(水)●日航DC8型機がインドで墜落。八六人死亡。
●ピル解禁求める「中ピ連」結成。代表・榎美沙子。
15(木)●新潟家裁に日本初の女性裁判所所長が就任。
16(金)●国連人間環境会議が人間環境宣言採択し閉幕。
17(土)●佐藤首相、テレビだけの会見で引退を表明。
●米で元CIA職員ら五人が民主党本部に侵入し逮捕される(ウォーターゲート事件の発端)。
18(日)●南九州に集中豪雨。川内市で七人死亡。
19(月)●三浦市の海岸で旧陸軍の手投げ弾を回収。
20(火)●一世帯の貯蓄は一八三万円、と総理府調査。
21(水)●自動車工業会、排ガス規制の延期を要請。
22(木)●自然環境保全法、大気汚染防止法改正公布。
●「四畳半襖の下張」掲載誌、猥褻容疑で摘発。
23(金)●老人福祉法改正公布。七〇歳から医療費無料。
24(土)●大蔵省、英ポンドの変動相場制移行(23日)にともなう混乱回避で、東京外為市場を閉鎖。
●厚生省、一人当たりの魚の摂取許容量を発表。
25(日)●沖縄で復帰後初の知事・県議選挙。
26(月)●青森県でリンゴの黒星病が異常発生と新聞に。
27(火)●最高裁が住民訴訟で初の日照権を認める判決。
●北里研究所に東洋医学総合研究所を設立。
28(水)●パンストの商品試験で一〇社中七社が五日で破損、と日本消費者協会の調査。
29(木)●沖縄全軍労組、復帰後初の四八時間全面スト。
30(金)●日本フィルハーモニー交響楽団解散(翌日、新日本フィル結成。指揮者に小澤征爾)。

20世紀博物館

馬の博物館

人と馬、その長く深いつきあいを知る

神奈川県・横浜市

桑原茂夫

横浜市根岸の高台に、かつて外国人や日本の上流階級の社交場になっていたという競馬場の跡地があり、そこに開館二〇年を迎えた「馬の博物館」がある。今でもスタンドの一部が残されていて、博物館入り口付近から見ると、なにやら〝兵どもが夢のあと〟の趣がある。

洋式競馬発祥の地とされるここで、実際に競馬が行われていたのは、慶応年間から昭和一七年まで。少なくとも明治時代は、庶民が夢中になるバクチというより紳士淑女が優雅に楽しむものだったらしい。馬券も高価なもので、明治四〇年に発売された馬券が一枚一〇円。当時ははがきの郵便料金が一銭五厘だったから、その六〇〇倍以上という価格(ちなみに現在は二倍!)で、とても庶民が気軽に買えるようなものではなかった。

さて、そのような〝古きよき時代〟の競馬場跡地に建てられたこの博物館をひとめぐりすると、馬と人とのつきあいは思いのほか長く、そして深いものがあって、皮肉なことに、競馬などはその一コマにすぎないということがよくわかってしまう。

そういえば、機械と自動車の時代が進むにつれて、生活空間から急速に馬が消えていったわけで、それまで、馬は当たり前の顔をして身近にいたのである。荷馬車だって、昭和二〇年代までは都会の道路を往来していたし、その馬たちが落としていった馬糞は、子どもたちにとって、それを踏みつければ背が伸びるおまじないの対象でもあったのだ。

▶日本の武者は、サラブレッドに比べると、二割ほど丈の低いニッポンウマに騎乗していた。

平野美津子

◀馬力測定器。ちなみに筆者は〇・二馬力、女性学芸員と同じ値だった……。

ところでその馬糞だが、野生の馬にとっては、重要な情報源となる。たとえば、糞には雄と雌を区別する〝におい情報〟があるので、別の群れの雄や単独行動の雄に、こちらの群れの雌の存在をさとられないようにするため、糞に尿をかけて、そのにおいを消すそうである。

とまあ、このようなことは、馬同士のコミュニケーションをテーマにしたコーナーで知ることができる。

▶正面広場の右手前には、名馬シンザンの像が、その右手後方には、昔のスタンドが見える。

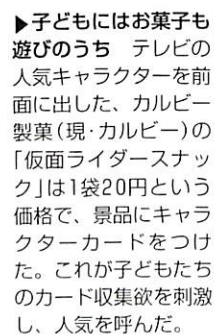
時の風化をうけない馬具

さて馬と人間のつきあいは、もっぱら人間の側が馬をコントロールし使役する関係にあったわけだが、その際、重要な役割をはたしてきたものに〝ハミ〟がある。馬にくわえさせ、人間の側の情報を手綱経由で馬に伝える器具である。

実は、馬が家畜として、人間の社会に加わってきたのは紀元前四〇〇〇年頃だろうと言われているのも、その頃の遺跡からハミが出てきたことによるそうだ。展示されているハミを見ると、時代が移ってもハミの形にはそれほど変化が見られない。これは轡や鐙など、ほかの馬具にも言えることで、むしろ大昔の馬具ほど工夫が凝らされており、それが長い間踏襲されてきたと考えられるのである。

ちなみに「はめをはずす」という言葉はハミをはずして人間のコントロールから解き放たれた馬の状態に由来するという説もある。ほかにも、「馬耳東風」や「馬脚」など、馬と人間の深いつきあいから生まれた言葉は少なくない。それほど馬は人間の社会に入りこんでいた。

実際に馬に乗れる馬場や、六種類の馬がいる厩舎を含み、二万五〇〇〇平方メートルの広さを持つこの博物館は、つまるところ〝文化〟を楽しむ空間なのである。

●馬の博物館
神奈川県横浜市中区根岸台一―三
☎〇四五―六六二―七五八一
横浜駅から一〇三系統バス滝の上下車
開館時間=一〇時~一六時
休館日=月曜日、四月一日、年末年始

ベストセラー
社会をバブルに走らせた『日本列島改造論』の功罪

この年、あたかも一〇年後、二〇年後の社会を予言するような本がベストセラーに名をつらねた。

そのひとつ、有吉佐和子の『恍惚の人』は、自分を失っていく病気である〝老人性痴呆〟の症状をリアルに描き出して、話題を呼んだ。科学の進歩で得た長寿と引き換えに、多くの場合〝痴呆〟のような新たな苦痛を引き受けざるをえない現代人の宿命を、真正面からとらえたこの作品は、一四〇万部を超えるミリオンセラーとなった。そして作品名の〝恍惚の人〟はそのまま、時代の不安感を表す流行語となったのである。

また、発売とほぼ時を同じくして首相となった田中角栄が、その基本政策を記した『日本列島改造論』も、一〇〇万部に迫ろうかというベストセラーになった。太平洋ベルト地帯への産業・人口の集中とそれに反比例して進む農村地帯の過疎という現実を踏まえて、工業の全国的な〝再配置〟や、新幹線と高速道の全国規模におよぶ建設、情報通信ネットワークの形成という具体的方針を掲げたこの本は、時の首相が著したものとあって、ただちに現実的な反響を呼び起こした。全国いたるところで土地の買い占めや暴騰が始まり、その後のバブル期へと日本を走らせたのである。

そんな状況の中で、まったくの素人による手作り情報誌の「ぴあ」が創刊された。印刷部数一万部、実売数千部というマイナーな出発だったが、情報の伝達に主観を加えないというその出版理念はこれまでにないものであり、やがて若者を中心に多くの読者の支持を得るようになって、既存の出版界に大きな影響を与えたのである。

●昭和47年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『恍惚の人』（有吉佐和子／新潮社）
2位	『天の音楽』（久保継成／仏乃世界社）
3位	『人間革命(7)』（池田大作／聖教新聞社）
4位	『日本列島改造論』（田中角栄／日刊工業新聞社）
5位	『HOW TO SEX』（奈良林祥／KKベストセラーズ）
6位	『ユダヤの商法』（藤田田／KKベストセラーズ）
7位	『女の子の躾け方』（浜尾実／光文社）
8位	『般若心経入門』（松原泰道／祥伝社）
9位	『坂の上の雲』（全6巻／司馬遼太郎／文藝春秋）
10位	『放任主義』（羽仁進／光文社）

全国出版協会出版科学研究所

▲『恍惚の人』（新潮社、690円）

▲『日本列島改造論』（日刊工業新聞社、500円）

▲「ぴあ」創刊号（ぴあ、100円）

スターと名場面
戦争映画もロマンポルノもそして歌まで〝実録〟風流行

結城昌治の直木賞受賞作の映画化作品「軍旗はためく下に」（深作欣二監督）は、太平洋戦争に題材をとってはいるがドキュメンタリータッチの推理ドラマでもあり、同監督がこの後すぐ手がける〝実録もの〟のいわば予告編でもあった。

映画は、戦争未亡人（左幸子）が、敵前逃亡のために〝戦死〟と認定されない亡夫（丹波哲郎）の名誉のために、戦友たちから真実を聞き出そうとするという設定で進められる。戦争による飢餓という極限状況を背景に繰り広げられるドラマは、リアリティに富み、新しいタイプの戦争映画として高い評価を受けた。

一方、日活ロマンポルノも〝実録〟風の「一条さゆり・濡れた欲情」（神代辰巳監督）で、新境地を切り開いた。ストリッパー・一条さゆりが、猥褻の罪で逮捕されたのをきっかけに作られたこの映画は、一条さゆり自身を登場させながらも、そのライバル（伊佐山ひろ子）のたくましい生きざまを軸に展開し、時代の雰囲気を鮮やかに浮かび上がらせた。

山田洋次監督の寅さんシリーズも次第に佳境に入り、この年はスーパースター・吉永小百合をマドンナに迎えた第九作「男はつらいよ・柴又慕情」が公開された。寅さんを演じる渥美清の、明るさと哀しさが漂う演技は出色である。

歌は、ちあきなおみの「喝采」が、歌手自身の哀しい物語をテーマにした、歌の〝実録もの〟で、文字どおり喝采をあびてレコード大賞を受賞する。

東宝提供

▲反戦映画として高く評価された「軍旗はためく下に」。写真中央が丹波哲郎。

◀「男はつらいよ・柴又慕情」。写真左から吉永小百合、渥美清、倍賞千恵子。

松竹提供

▼歌謡曲のタブーだった〝喪服〟まで登場したヒット作「喝采」。

日本コロムビア提供

日活提供

▲「一条さゆり・濡れた欲情」。性を通して人間を描くロマンポルノの代表作。

モノ語り'72
カメラ、電卓、体温計続々性能アップした〝ハイテク〟製品

▲**ポケットに入る高機能カメラ**　この頃すでに自動露光ですぐ撮影できるインスタマチック・カメラが市場に出まわっていたが、ポケットに入るサイズはコダックの「ポケット・インスタマチック・カメラ」が初めて。5機種あって、価格は1万5000～4万2000円。フィルムも専用の16ミリ幅のものが発売されたが、品質は従来のものと変わらず、しかもカートリッジ式で装てんも簡単だった。

▲**カラーテレビもどんどん見やすく**　この年ソニーから発売された「18型トリニトロンカラーテレビ」は、解像度のよいトリニトロンシステムをさらに改良し、広角ブラウン管を採用、奥行きをそれまでのもの（下段写真左）から11センチも短くした薄型カラーテレビだった。価格は13万6800円。トリニトロンは向きを変えてもカラー画像が乱れないことから、薄型テレビを回転台に乗せて、画面の向きを自由に変えて楽しめるというのも、大きなセールスポイントになっていた。

▶**ＳＦ感覚・テクノ感覚を遊ぶ人形**　メカニックな内部が透けて見えるだけでなく、それぞれ特殊な機能を持つ手足が取りはずし自由で、その組み合わせを楽しむこともできる男の子向けのロボット人形「変身サイボーグ1号」がタカラから売り出され好評だった。ＳＦばやりの時代を映し出して、単純な動くロボットから科学的な機能を備えたロボットに、その装いを変えたのである。本体900円から。変身用手足300円など。

◀**体温計もデジタル時代に**　立石電機（現・オムロン）が発売した「デジタル電子体温計MC-320」は、医療機関用とはいえ、初めて体温計にＬＳＩ（大規模集積回路）を搭載し、簡単な操作、短時間の検温、読み取りやすいデジタル表示などを実現した、コンピュータ時代の到来を告げる画期的な医療ツール（5万4000円）だった。7年後には家庭用の電子体温計も登場することになる。

◀**水性ボールペンの登場**　水性インクを使い、0.8ミリ径のボールを装着した「ボールぺんてる」は、なぐり書きにも適していて、学生や仕事に追われるビジネスマン向けの定番文具となった（1本50円）。前年に大日本文具から社名変更したばかりのぺんてるにとって、文字どおりの新製品となった。

▶**個人向け文具の革命**　電卓がもっぱらオフィス向けの事務機器だった時代に、敢然と個人用文具として売り出し成功したのが、カシオ計算機の「カシオミニ」だ。1万2800円という価格が個人レベルの文具として受け入れられた最大の要因だが、その低価格は表示ケタ数を6ケタにとどめることによって実現した。個人の計算には6ケタで十分という調査とそれに基づく決断があったのである。

▶**子どもにはお菓子も遊びのうち**　テレビの人気キャラクターを前面に出した、カルビー製菓（現・カルビー）の「仮面ライダースナック」は1袋20円という価格で、景品にキャラクターカードをつけた。これが子どもたちのカード収集欲を刺激し、人気を呼んだ。

©石森プロ 東映

人物クローズアップ

横井庄一（五六）

グアム潜伏二八年の元日本兵「恥ずかしながら……」と帰国

▲密林の生活用品。フタなしヤカン、飯盒、木製ケース入り山刀、ココナツから作った繊維など。 共同通信社

戦後二七年目を迎えたこの年一月二四日、観光客でにぎわうグアム島の中心都市、アガナ市から南へ一九キロのタロホホのジャングルで、元日本兵が発見された。この兵士は、元陸軍伍長・横井庄一（五六）。

「捕虜の経験があるので、国家的栄誉は受ける気持ちにならない」と、前年に芸術院会員を辞退した作家の大岡昇平は、このニュースを聞いて「生きて虜囚の辱めを受けず、の戦陣訓はまだ生きていたんですね」（「朝日新聞」一月二五日夕刊）と感無量の面持ち。

戦争作家の棟田博は「観光ホテルが林立するグアム島の密林にひそんでいたことに、まだ戦争は終わっていないという、象徴的なむごさを感じた」（「朝日新聞」一月二五日夕刊）と語った。

横井は、大正四年、愛知県海部郡富田村（現・名古屋市中川区富田町千音寺）に生まれ、洋服仕立て業を経て昭和一六年に応召。中国の奉天（現・瀋陽）で陸軍第二九師団に編制され、一九年に第三八連隊に転属後グアム島へ配属されたが、同年八月一一日同島守備隊は玉砕。戦死したものとして、二〇年七月三〇日、父・栄次郎に戦死公報が届けられ、軍曹に昇進していた。

玉砕後、横井は、住民の影におびえながら戦友二人とともに逃亡を続け、タロホホ滝の近くに掘った穴には十数年間潜伏。二人が別の洞窟で病死してからは、孤独な生活を送った。終戦は二〇年ほど前、飛行機から投下されたビラで知ったというが、「捕虜としての辱めを受けるのがいやだった」と逃亡生活を振り返る。

保護されてから九日目の二月二日午後二時一五分、横井は日航特別機で羽田空港に到着。出征から三一年ぶり、グアム島守備隊二万八一〇人のうち、一三〇五人目の生存者として故国の土を踏んだ。

グレーのコートに身を包んだ横井は、グアム島戦友会の代表ら、出迎えの人々に手を振りながらよろめくようにタラップを降り、マイクの前で、

「恥ずかしながら横井庄一、生き長らえて帰ってまいりました」

と、しわがれ声を精一杯張り上げた。

東京第一病院で約二ヵ月静養して健康を取り戻した後、郷里の名古屋に戻って結婚。穴居生活の経験を生かして、耐乏生活評論家として活躍した。

「もう年じゃから、今はなーんにもしとらん」と笑う横井だが、ただひとつ心残りがある。

「わしゃーグアム島生き残りの最後の一兵じゃから、帰国してすぐ宮城に参上し、玉砕の状況を天皇陛下さまに、直接ご報告する義務があると思っとりましたが、お会いすることはできんじゃった」と、八〇歳を超えた今でも残念そうに語った。

▶穴居生活に耐え、「陛下のために、ただただ生きた」と語る元日本兵、横井庄一さん。 共同通信社

▲この年11月3日、京都の幡新美保子さん（44）と結婚。 野上透

◀この日航機事故で奇跡的に生き残ったのは三人だけ。そのうちの一人がイギリス人のルーシー・ウェーバーちゃん、四歳。APの契約カメラマンが撮影した彼女の写真が、世界の新聞各紙を飾った。 WWP

決定的瞬間

「ママはどこへ行ったの」ルーシーちゃん(四) 奇跡的生還直後のひとこと

一九七二年（昭和四七）六月一四日夜（現地時間）、インド・ニューデリーのパラム国際空港に着陸しようとしていた東京発南回りのロンドン行き日航機（ダグラスDC8）が、滑走路の手前二三キロ地点に墜落した。現地は細かな土ぼこりが舞う黄土の砂漠。機体はガンジス川の支流、ジャムナ川西岸の堤防に衝突して炎上した。

現場に駆けつけた読売新聞社の特派カメラマンが、その一瞬をとらえたのが下の写真である。

航空機には乗客・乗員八九人が乗っていたが、そのうち八六人が死亡。生存者は、スウェーデン人の少女（一一）と幼いイギリス人姉妹、ルーシー・ウェーバーちゃん（四）とソフィーちゃん（二）の三人だけだった。

ルーシーちゃんの話によると、一家はソロモン諸島に住んでおり、父親は医者。ママと妹と一緒にイギリスに住んでいる祖父母を訪ねる途中だったという。母親の死は知らされておらず、「ママはどこへ行ったの？　なぜこんな病院に入れられてしまったの」と訴える姿が、あらためて周囲の涙を誘った。

そんな彼女の表情をAPの契約カメラマンがとらえ、世界の各紙を飾った。

事故現場手前の東岸には、一度着陸しかけたような車輪の跡が残っており、「日航機はまるで墜落現場付近に空港があると信じこんだような降下の仕方をしていた」という（柳田邦男『マッハの恐怖』）。事故原因についてインド政府はパイロットが飛行コースと高度の確認をおこたったためと一年後に発表した。

この年は航空機事故が多発した。インドでの墜落事故の翌日には、キャセイ航空機が南ベトナム（当時）上空で空中爆発し八一人が死亡、さらに一一月二八日には、コペンハーゲン発モスクワ経由東京行きの日航機（DC8）がモスクワ郊外のシェレメチェボ国際空港を離陸直後に墜落、六二人が死亡するなど、一年間で約四〇件、二〇〇〇人以上が犠牲となった。また一九七〇〜七四年の五年間をとってみると七〇〇〇人が死亡している（一九九〇〜九四年では四一〇四人）。

ルーシーちゃん一家の悲劇が、何度も繰り返されたのだ。

▶インド・パラム国際空港近くで墜落した日航のDC8機。死亡八六人のうち二一人が日本人だった。

読売新聞社

◀西壁北側の「女子群像」。朝賀の儀式だとか葬送を描いているとか諸説あるが定説はない。女性たちの服装や髪型などが高句麗の古墳の婦人図と類似しているため、よく比較される。　国（文部省）保管

美の出会い

一三〇〇年ぶりに甦った明日香・高松塚古墳 一六人の男女像の謎

▲東壁中央の「青龍図」。両肢を突っ張り、首をもたげ、大きく開いた口から長く赤い舌を出している姿が印象的。　国（文部省）保管

その瞬間、発掘調査員たちは「あっ」と息をのんだという。「日本考古学界、戦後最大の発見」は、奈良県高市郡明日香村平田の、雑木林におおわれた直径一八メートル、高さ五メートルの高松塚と呼ばれる小さな円墳からだった。かつて文武天皇の陵墓と見られていたこともある。

昭和四七年三月二一日、発掘をしていた奈良県立橿原考古学研究所は、思いがけず、墳丘内の石槨の壁に、青、赤、黄、緑などの極彩色で描かれた壁画を発見した。それまでも、九州を中心に、石室内に絵を描いたり線刻をした装飾古墳の例は多く知られていたが、それらは、いわゆる〝原始絵画〟である。高松塚では、古代中国における伝統的な墓室壁画のテーマである「四神（青龍・白虎・朱雀・玄武）図」「人物風俗図」が、リアルな筆致で描かれていた。

飛鳥文化の発祥地であるこの地に、古代の飛鳥びとを彷彿させる男女の群像図が突如として出現した――以後数ヵ月にわたり熱気ある論議が、新聞・雑誌上で展開された。高松塚はすでに盗掘されていたが、それも「たんなる盗掘ではなく、皇統争いのために墓をはずかしめるのが目的だったから」という説まで出てきた。人々はどっと明日香村に押し寄せ、一時下火となっていた〝飛鳥ブーム〟に再び火がついたのである。

永久封印された壁画

壁画は石槨の内側に漆喰を塗り、その上に描かれている。天井と側壁に絵があるが、南側の壁は盗掘孔によって大きく抉られていた。

話題を呼んだ男女の群像は、東壁と西壁にそれぞれ四人一組で二組ずつ、計一六人が描かれている。西壁の女子像は、マスコミを通じて最初に発表されたものだ。男子像には蓋を握りしめた姿もある。これは大納言以上の位でなければ所持できなかったという説もある。

四方の壁の中央部には四神が、さらに東壁の青龍の上方に日輪、西壁の白虎の上方に月輪が描かれていた（ただし、南壁に朱雀があったかどうかは、盗掘孔のため確認できていない）。日には金箔、月には銀箔が張られている。天井には星宿あるいは星辰と呼ばれる古代中国の星座が描かれていたが、星は円形の金箔、星と星は鮮やかな赤い線で結んであった。

人物像の立体的な構図、全体の色彩の美しさは、とても一三〇〇年前のものとは思えないほどだ。

最大の疑問、高松塚に葬られていた人物は誰か。残っていた人骨から、「筋骨発育良好な男性で、年齢は熟年者」（『高松塚壁画古墳』）と推定されている。また、築造年代は七世紀末から八世紀初めに絞られてきた。しかし、被葬者の候補として草壁皇子（六八九年没）、長親王（七一五年没）など八人があげられたが、いまだ特定されていない。

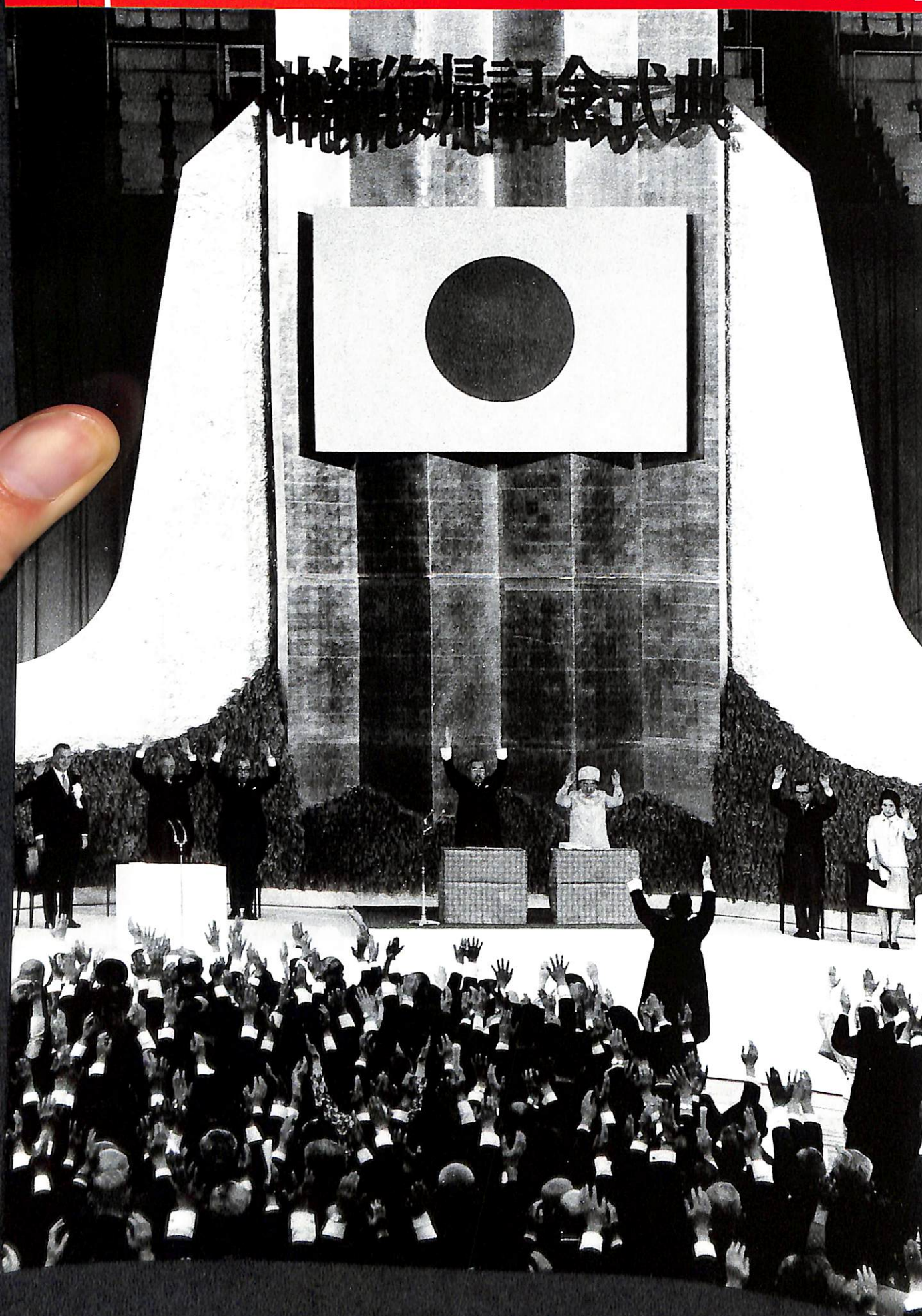
高松塚古墳は、まだまだ謎に包まれている。

昭和四九年四月一七日、この壁画は国宝に指定された。現在は永久封印。上下二段ある発掘坑はコンクリートで固められ、分厚い鉄扉によって封鎖してある。文化庁文化財保護部美術工芸課の土肥孝調査官が、理由を説明する。

「壁画は外気や人の吐く息に触れるとすぐ酸化、劣化し、剝落してしまう。そこで厳重に密閉され、永久保存措置がとられたのです」

高松塚古墳保存のために、政府は寄付金つき記念切手を発行。その収益の一部で、古墳のすぐ西隣に高松塚壁画館が建てられた。館内には、壁画の模写、石槨の模型、副葬品のレプリカなどが展示され、今も多くの見学者を集めている。

▼高松塚古墳は、近鉄・飛鳥駅から約700メートル。多くの見物客でにぎわっている。　但馬一憲

27年おくれの「戦後」
復帰第1日目から沖縄が背負った“本土の影”

◀5月15日午前10時から東京・日本武道館で開かれた政府主催の沖縄復帰記念式典。天皇・皇后のほか、アグニュー米副大統領も出席、大統領宣言を代読した。

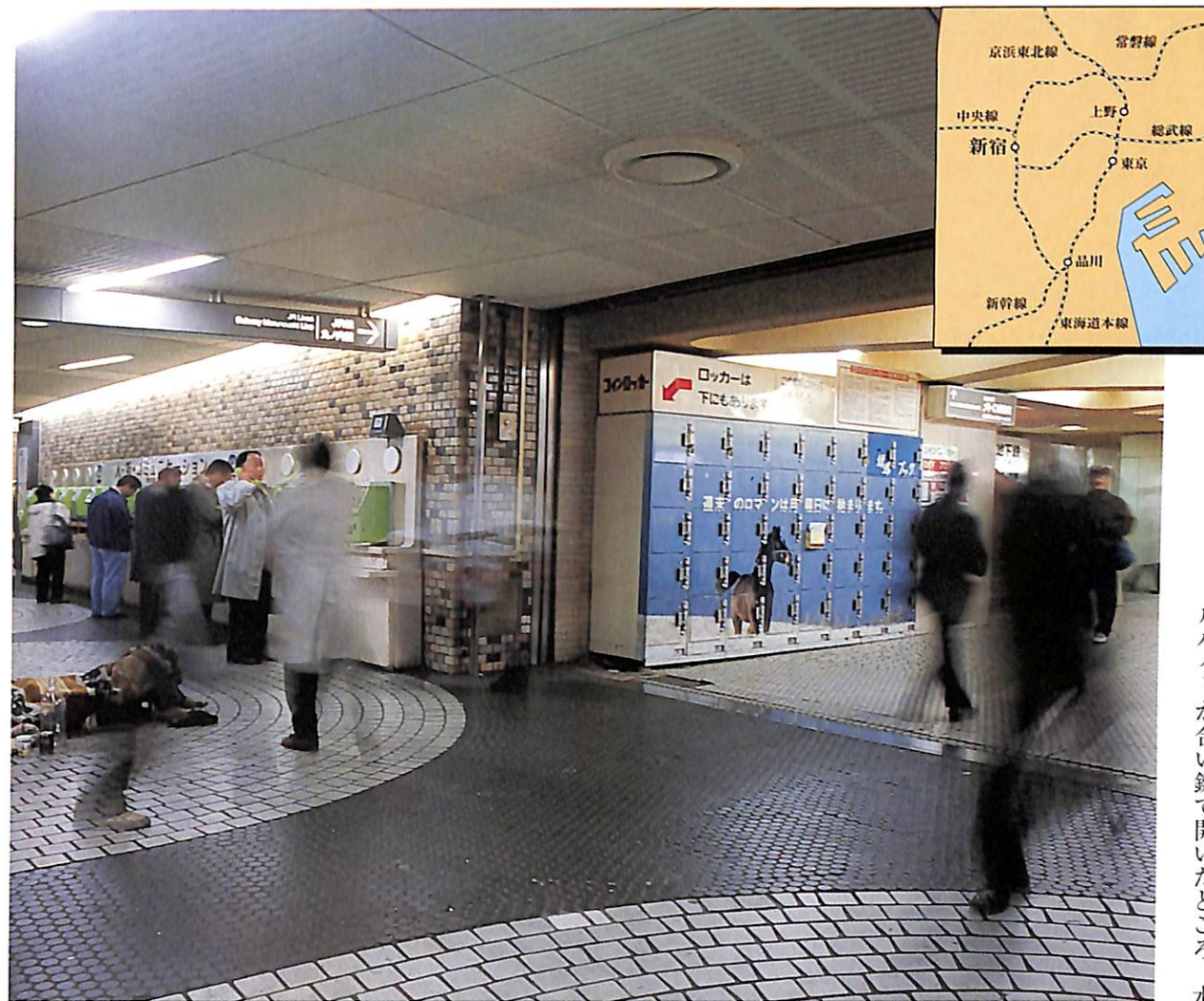
読売新聞社

昭和二七年四月の対日講和条約によって日本から分離され、アメリカの支配下にあった沖縄が日本に復帰した。日本本土におくれること二七年の「沖縄の戦後」だった。沖縄県民約九五万人は、日本国民としての権利を回復したが、それは、多難な前途を予感させるものであった。

感慨と不安が入り交じった復帰初日、明暗くっきり

昭和四七年五月一五日午前零時、町役場、消防署や工場、停泊中の船などから一斉にサイレンや汽笛が島内に響き渡った。施政権が返還され、「新生沖縄県」が誕生した瞬間であった。那覇市ではサイレンが鳴り終わると本会議を招集、地方自治体としての新たな取り組みに着手するなど、あわただしい復帰一日目が始まった。前日には最後となるドルを使って買い物する人たちでごった返した町には、「日の丸」がひるがえっていた。

「現場」を歩く
新宿
西口広場の「コインロッカーベビー」

山本徹美

▲新宿駅地下街。昼間は人通りが絶えず、コインロッカーの利用者も多く、いつもふさがっている。但馬一憲

昭和四七年五月一二日、東京・新宿区の新宿駅西口地下に設置してあるコインロッカーから、赤ちゃんの死体が出てきた。同日付「朝日新聞」夕刊によると、次のとおり。

「コインロッカーが四日間の保管期限の切れた十二日になっても錠をかけたままになっているので、不審に思った同社アルバイトが合い鍵で開いたところ、水玉模様の手さげ用紙袋があって異臭を放っていた。紙袋を事務所であけたところ白いタオルに包んだえい児の死体が出てきた」

この頃からコインロッカーに嬰児を捨てる事件がふえてくる。

警察庁の調べでは、最初に発生したのが、昭和四五年で合計二件。四六年は三件、四七年が八件。そして四八年には四六件と急増するのである。捨てられた赤ちゃんは「コインロッカーベビー」と呼ばれ、流行語にもなった。

ベビーブームの陰で

新宿駅西口地下の現場となったコインロッカーは、今どうなっているのか。

現在、ロッカーの設置してある場所には係員が配置されていた。不審物遺棄の防止対策らしい。その係員に訊くと、例の事件現場はここで間違いなく、ロッカーの位置も当時とまったく変わっていないという。係員が振り返る。

「最初が秋葉原で、次が上野だった。そろそろ新宿も危ないぞ、と警戒をしていた矢先でした。もっとも、うちでコインロッカーベビー事件があったのは後にも先にもこの一件だけでしたね」

このコインロッカーは百貨店地下食品売場とつながっていて、同店の開店時間中は人通りがあるものの、それ以外の時間帯はまったく人気がなくなる。嬰児の死体を入れた紙袋を持った人物の目撃者はなく、結局、犯人不明で迷宮入りした。

「京王プラザホテルがオープンしたばかりで、西口が若者でにぎわい始めた時期でした。その後、すぐ近くにある別の場所ではコインロッカーベビーが三体もあがったなぁ」

ロッカーは保管期限がすぎると、開けられる。そのことは捨てる側も先刻承知のはず。完全犯罪が目的ならば死体遺棄に適している場所とは言えない。なぜ、こんなところを選んだのか。私には、犯人がむしろ発見、発覚を望んでいたように思えてならない。赤ちゃんの死体は警察に渡され、お骨にして弔ってもらえる。せめて葬儀だけでもあげてほしいと願っての行為ではあるまいか。だとすると、哀れな女性像が浮かび上がってくる。

同時期はやっていたのが上村一夫の劇画「同棲時代」で、結婚にとらわれないスタイルがもてはやされた。が、妊娠となるとたんに状況が変わる。まだまだ女性の経済力は乏しく、未婚の女性が育児をこなすには厳しい現実があった。

この年は、第二次ベビーブームでもあった。祝福されて生まれた多くのベビーの陰に、妊娠の責任をとらない男と女の犠牲「コインロッカーベビー」がいた。この明暗の差は、あまりに大きすぎる。

毎日新聞社

▲嬰児の死体が発見された新宿駅西口地下のコインロッカー。昭和47年5月12日。

27年おくれの「戦後」
復帰第1日目から沖縄が背負った"本土の影"

▲前年、級友の一人が米兵のトラックにひき殺された豊見城村上田小学校の児童たちが、復帰について話しあう。石川文洋

▲沖縄復帰の日米共同声明が発表された1月8日の那覇市国際通り。市民の表情は複雑だった。沖縄タイムス

午前一〇時、東京と沖縄で同時に記念式典が開催された。東京の会場は日本武道館。天皇・皇后臨席のもと、佐藤栄作首相、アグニュー米副大統領、最後の沖縄高等弁務官・ランバート陸軍中将をはじめ約一万人が参列、天皇からは、

「この機会に、先の戦争中および戦後を通じ、沖縄県民の受けた大きな犠牲をいたみ、長い間の労苦を心からねぎらうとともに、今後全国民がさらに協力して、平和で豊かな沖縄県の建設と発展のために力を尽くすよう切に希望します」

という、お言葉があった。

一方、沖縄での会場にあてられた那覇市民会館には、関係各界から一五〇〇人が招かれ、参加者たちは、会場入り口に沖縄祖国復帰協議会が立てた「沖縄処分糾弾」の塔のわきを通って会場に入っていった（「朝日新聞」五月一五日夕刊）。

席上、屋良朝苗知事は、「言い知れぬ感激とひとしおの感慨をおぼえる」としながらも、「今後もなお厳しさは続き、新しい困難に直面するかもしれない」と前途への不安をも表明した。

こうした政府主導の式典とは別に、那覇市民会館に隣接する与儀公園では、沖縄祖国復帰協議会主催の「沖縄処分」抗議県民総決起大会が開かれた。午後三時から開かれた大会には、雨の中、三万人が参加。自衛隊の沖縄配備に反対し、公用地暫定使用法の即時廃棄を要求する決議などを採択し、「今日の復帰は、県民に引き続き差別と犠牲を強要する"沖縄処分"」とする宣言を行った後、午後五時にデモ隊は会場を出発、国際通りに立てられた「沖縄県」の立て札を倒しながら激しい行進を繰り広げた。

沖縄の風習やルールが押しつぶされていく

沖縄返還に関する日米両政府の基本方針は、昭和四四年一一月の共同声明にも盛りこまれた。その根底にあるのは、朝鮮半島や中国、ベトナムといった極東情勢に対する両国の共通認識で、「米国が沖縄において両国共通の安全保障上必要な軍事上の施設および区域を日米安保条約に基づいて保持することにつき意見が一致した」と声明文にしたためられていた。

日米両政府主導の返還交渉が進む中、政府は「沖縄復帰対策要綱」（第一次分・昭和四五年一一月、第二次分・四六年三月）を策定。それまでは、学校ごとに教師たちの自主的話し合いで決められてきた教科書の選定や校長・教頭の人選などにも、新設された教育委員会の意向が強まるなど、行政、文化、産業・経済すべてに、復帰後の「本土化」に向けた具体的レールが敷かれていった。

四七年五月一五日、沖縄の人々の顔は複雑であった。曇った空に日の丸が掲げられる一方で、街路は復帰歓迎派と反対派のビラで埋めつくされた。

浦添市の歯科医師・新城彬明さんは当時をこう振り返る。

「私も含めて一般の市民はとてもしらけていた。窃盗や強盗などアメリカ兵による事件が日常茶飯事だったことを思えばアメリカより大和（日本）の方がまだましという気持ちだった。当時は保健所につとめていたのですが、本土の法律が押しつけられ、保健所は予防のための機関であって、治療行為はしてはならないなど、沖縄の風習やルールが押しつぶされていくことにいらだちをおぼえた」

「新生沖縄県」はスタートしたが、その後の歩みは険しく、「核抜き」や毒ガス撤去といった政府の公約もうやむやのままであった。防衛施設庁は米軍の用地確保のため、公用地暫定使用法を発動し、約一八〇〇人の反戦地主の土地を強制使用。「本土並み復帰」もその中身は補助金体質の進行と本土資本の支配を強めるだけで、「健康な地方自治」の確立からはほど遠いものであった。

平成七年九月、米兵三人による少女暴行事件は沖縄県民の怒りを爆発させ、大田昌秀知事は、米軍用地を強制使用するための「代理署名」を拒否する。平成八年の沖縄県民投票では、米軍基地の整理・縮小に投票者の九〇％が賛成。「基地なき沖縄」への思いは今も燃え続けている。

▼11月7日、那覇基地にF104J戦闘機18機などが配備され、翌年10月に総勢5500人の沖縄部隊が発足した。読売新聞社

フォト＋日録で再現する366日

読売新聞社

▲ごきげんの角さん（7月22日）ミス・ヤング・インターナショナル出場の美少女たちが首相官邸に田中角栄を訪問した。首相が一人一人に握手すると、次々にお返しのキス。

朝日新聞社

▲高見山、外国人力士で初の優勝（7月16日）大相撲名古屋場所千秋楽で旭国を下し13勝2敗。昭和39年にハワイでスカウトされ高砂部屋に入門、苦闘のすえの快挙だった。写真は先代親方夫人に祝福される高見山。

読売新聞社

▼高知県で集中豪雨による山崩れ（7月5日）土佐山田町の国鉄土讃線繁藤駅沿いの山が、幅300メートルにわたって崩落。死者・不明60人。写真は駅構内に流れこんだ土砂で谷に突き落とされた列車。

時事通信社

◀四日市喘息訴訟、原告全面勝訴（7月24日）津地裁が昭和四日市石油など6社に約8800万円の損害賠償を命じ、大気汚染の責任を企業に問う判決となった。

新華社／中国通信社

◀中国で2100年前の貴婦人が出土（7月30日）湖南省・馬王堆墳墓で、長沙国の宰相の妻とみられる女性の死体が発掘された。歯や髪も残るほぼ完全な姿で、皮膚に弾力もあった。副葬品も豊富だった。

共同通信社

▶ロッキードかダグラスか（7月23日）日航と全日空が導入するエアバス候補の製造会社が、米国から実物で売りこみ。この日、羽田空港にダグラス社ＤＣ10（左）とロッキード社Ｌ1011が並んだ。

昭和47年7月

1（土）●政府、航空機などの技術導入を全面自由化。
2（日）●金沢市で暴走族見物に一〇〇〇人集まり混乱。
3（月）●ハンセン病無菌患者が初の隔離政策抗議デモ。
4（火）●韓国と北朝鮮、自主的解決・南北調整委員会設置など平和統一に関する共同声明を発表。
5（水）●田中角栄、自民党総裁選で福田赳夫を破る。
6（木）●三日以来の豪雨被害で建設省に対策本部設置。
7（金）●第一次田中角栄内閣が成立する。
8（土）●神宮球場で第一回日米大学野球選手権大会。
9（日）●ペットと一緒の納骨堂を東京で建築と新聞に。
10（月）●中国上海舞劇団二〇二人来日。文革後で最大。
●大学生七人がタウン情報誌「ぴあ」を創刊。
11（火）●大平外相、貿易黒字削減で学校給食への米国産オレンジジュース導入検討を省内に指示。
12（水）●京都・清水寺の釈迦堂が豪雨の崖崩れで全壊。
13（木）●各地で豪雨が続き気象庁は「四七年七月豪雨」と命名。死者・行方不明は全国で四四一人。
14（金）●一〇〇億円の円建てオーストラリア連邦債の発行契約に調印（戦後初の円建て外国債）。
15（土）●米国映画「ゴッドファーザー」封切。
●柏崎市荒浜で原発住民投票。建設反対六四％。
16（日）●道警、旅客機に爆弾と脅迫した中学生を補導。
●高見山、外国人力士として初めて優勝する。
17（月）●関門港で浚渫船が機雷に触れ爆発。四人負傷。
18（火）●都土木技術研、地盤沈下は地下水の汲み上げ規制で鈍化している、と調査結果を発表。
19（水）●広島大医学部で手の指の再生手術に成功する。
20（木）●上越市、工場排出フッ素被害に医療救済決定。
21（金）●経済審議会の調査で、国民の七〇％が増収より物価の安定、四三％が余暇より増収を希望。
22（土）●大平外相、日中正常化問題で初の公式折衝。
23（日）●日本テレビ「太陽にほえろ！」放映開始。
24（月）●津地裁の四日市喘息訴訟で原告勝訴。
25（火）●日米通商協議を神奈川県箱根町で開く。
26（水）●中曽根通産相、クラレの対中国プラント輸出に、輸銀の延べ払い融資を認める方針と発表。
27（木）●北海道電力伊達火力発電所の建設中止を求め住民が提訴（住民による初の環境権訴訟）。
28（金）●通産省、サングラスの品質表示義務づけ決定。
29（土）●東京で日本星空を守る会第一回全国大会開催。
30（日）●全国予防接種事故防止推進会、国を相手にワクチン事故の訴訟を起こす方針を決定。
31（月）●環境庁、二八地域で玄米と土壌から基準値を超えるカドミウム検出と全国調査結果を発表。

証言・あの日この日
山口　瞳（46）

12月29日（金）〈マグロとかカズノコとか、すでにして馬鹿馬鹿しく高価なものは天井値に達していて、それほど昂騰していない。そうでないものの値あがりがヒドイのである。／たとえば慈姑である。野菜は家の近くの八百屋に一括して注文をだしておくのであるが、慈姑は無いという。女房が、あわてて、ほかの八百屋に買いに行った。そこでも売っていない。……半分あきらめて、念のため、古くからあるマーケットのなかの八百屋で聞いてみると、そこにあった。／おどろくなかれ、慈姑は、一箇二十五円から三十円もするという〉（山口瞳『男性自身』）

70年代に入って、秋刀魚、松茸、数の子など季節感を持った食べ物が次々と値上がりする。だがこの慈姑は少し違う。需要と供給の関係、つまりこの頃から家庭でお節料理を作る人が減っていったからだ。　（坪内祐三）

読売新聞社

▲ミュンヘン五輪開幕（8月26日）ゲリラによる「血の惨劇」、コンピュータによる記録測定などで強い印象を残した。日本は金13、銀8、銅8を獲得。写真は初優勝を飾った男子バレーボールチーム。

毎日新聞社

◀赤潮で瀬戸内のハマチ400万尾が死ぬ（8月4日）播磨灘に大量の赤潮が発生したため、兵庫県家島町の家島・坊勢島・西島の20業者のハマチ養殖場が、7日までに壊滅的な被害を受けた。

朝日新聞社

▶近鉄電車で手製爆弾爆発（8月2日）奈良市の菖蒲池駅一学園前駅間を走行中、突然3両目で爆発、乗客21人が負傷した。爆弾は粉ミルク缶に化学薬品を詰めたものだった。

読売新聞社

◀米軍戦車を通行阻止（8月5日）社共両党員ら150人が、ベトナム向けの戦車を積む搬送車5台に対し決行。飛鳥田横浜市長は米軍車両は重量制限違反と阻止行動を支援した。

昭和47年8月

1（火）●毒物及び劇物取締法改正施行。シンナーの吸引・所持・販売などに罰金刑。
2（水）●奈良市を走行中の近鉄電車内で爆弾が爆発。
3（木）●京都で第一回性教育夏季セミナーを開く。
●カシオ計算機、電卓「カシオミニ」を発売。
4（金）●播磨灘で大量の赤潮が発生する。
5（土）●社共両党員らが横浜で米軍の戦車搬送を阻止。
6（日）●浜松市で鍼麻酔による帝王切開出産に成功。
7（月）●日本列島改造問題懇談会、首相官邸で初会合。
8（火）●「本絹」和装品の過半は合繊混紡と公取委調査。
9（水）●名古屋高裁、イタイイタイ病訴訟で被告控訴を棄却、原告要求の賠償額をほぼ全額認める。
10（木）●武蔵野市、独居老人への給食サービスを開始。
11（金）●国有林が三五六億円の赤字。二二年以来最高。
●井上ひさし「手鎖心中」で芥川賞を受賞。
12（土）●公害病患者の治療費などを企業が負担する川崎市公害対策協力財団の設立を決める。
●沖縄豊見城の反戦地主一二人に強制使用通告。
13（日）●東京でアジア初の国際心理学会議を開く。
14（月）●札幌地検、心臓移植の和田寿郎を不起訴処分。
15（火）●森永乳業、砒素ミルク事件の責任を認め、患者らの恒久的な救済要求を受諾すると決める。
16（水）●東証でダウ平均株価が初の四〇〇〇円台乗せ。
●中年女性の太りすぎ増加と厚生省の栄養調査。
17（木）●沖縄県祖国復帰協、政府に対し二七年間の米国統治による損害賠償の請求を決定する。
18（金）●川崎市と市内六七工場が工場緑化協定に調印。
19（土）●東大宇宙航空研、電波探測衛星を打ち上げ。
20（日）●第一八回母親大会。老人・親子問題を討議。
21（月）●野坂昭如ら、「四畳半襖の下張」事件で送検。
22（火）●大学基準協、共通テストなど入試改革案作成。
23（水）●都公害研、中央卸売市場のマグロの七五％から高濃度の水銀検出と報告。
24（木）●横浜地裁、出産後の配転拒否を理由とする免職は、不当差別として原告勝訴の判決。
25（金）●アイヌ解放同盟、日本人類学会・日本民族学会大会に研究方法に関しての質問状を提出。
26（土）●ミュンヘン五輪開幕。一二二カ国一万人参加。
27（日）●奈良県が大和盆地を狩猟禁止に指定と新聞に。
28（月）●通産省、規制枠超えた粗鋼増産を各社に要望。
29（火）●北富士演習場の米軍演習再開を反対派が阻止。
30（水）●北朝鮮と韓国の第一回赤十字会談を開催。
31（木）●ダイエー、売り上げで三越抜き業界一位に。
●ハワイで田中・ニクソンの日米首脳会談開催。

▼首都高から冷凍車が転落(9月4日)スピードを出しすぎた冷凍車が、赤坂見附付近の急カーブを曲がりきれずに転落。10メートル下の道路を走っていたダンプカーを大破させた。双方の運転手は即死、積み荷の肉やソーセージが散乱した。

読売新聞社

時事通信社

▲阪急・福本、世界一の足(9月26日)西宮球場で行われた対南海戦の3回裏に2盗を決め(写真)、ドジャースのモーリー・ウィルスの持つ記録を上回り、シーズン105盗塁の世界新を達成。この年、106個と記録を伸ばした。

◀椎名特使にデモ隊の出迎え(9月17日)日中国交正常化における日本の立場を説明するため、台湾に派遣された特使の車は、「日本の新政策を打ち壊せ」と叫ぶ学生1000人に取り囲まれ、武装警官が出動する騒ぎとなった。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▼日本人従業員、米兵に射殺される(9月20日)沖縄・金武村の海兵隊基地で、靴磨き中の口論が原因。米軍は、犯人のベンジャミン上等兵(写真)の引き渡しを拒否したが、翌日夜、任意出頭させた。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲南北朝鮮赤十字代表、ソウルで会談(9月2日)8月のピョンヤンでの第1回会談後、この日北朝鮮代表団がソウル入り。3日からの本会談では、南北離散家族の再会実現に向け引き続き討議された。

朝日新聞社

▲別荘分譲は早いもの勝ち(9月3日)長野県の戸隠飯綱高原分譲地の販売に希望者が殺到。受付を200メートル先に設けた場所への先着順としたため、写真のように走ることになった。

朝日新聞社

昭和47年9月

1(金)●書店組合全国連合会、書籍マージン引き上げ求め、書籍と雑誌の不売を実施。
●自衛艦が沖縄で入港を拒否され米軍港に接岸。

2(土)●第一回アジア卓球選手権が北京で開かれる。

3(日)●青森署、保険金めあてに交通事故をよそおい、九歳の長女を死なせた容疑で父親らを逮捕。

4(月)●日立造船、中国と一万四三〇〇トンの貨物船二隻の輸出契約を締結と発表(一万トン以上は初)。

5(火)●ミュンヘンの五輪村にパレスチナ・ゲリラ侵入。銃撃戦でイスラエル選手ら一一人を殺害。

6(水)●東京湾の半分は無生物状態と三都県共同調査。

7(木)●東京でPCB追放を考える消費者の集い開催。

8(金)●韓国、「週刊読売」の北朝鮮特集に反発し、読売新聞支局の閉鎖と記者の国外退去を命令。

9(土)●民間勤労者の平均年収は一〇六万円と国税庁。

10(日)●IMF、日本の黒字が通貨危機の一因と報告。

11(月)●理研、紫外線によるPCB分解法開発と発表。

12(火)●兵庫県、ピアス用穿孔器具の販売禁止を通達。

13(水)●最高裁、地裁への判事補参加制の導入を決定。

14(木)●閣議、むつ小川原総合開発の原案を承認。
●仙台で閖上大橋(全長五四一・七メートル)の完工式。

15(金)●高知市で集中豪雨による崖崩れ。一〇人死亡。

16(土)●厚生省、八種の難病対策の研究班設置を決定。

17(日)●椎名特使、日中正常化を説明のため台湾訪問。

18(月)●田中内閣の支持率は六二パーセントで、吉田内閣を上回り過去最高、と朝日新聞の世論調査。

19(火)●国鉄、リニアモーターカーの初実験に成功。

20(水)●沖縄の米軍基地で日本人従業員が射殺される。
●神戸地裁、障害福祉年金との併給を禁じた児童扶養手当法を違憲とする判決(堀木訴訟)。

21(木)●池袋の東京拘置所跡に高層ビル群の建設を発表。

22(金)●全国の女性教師は五二・四パーセントと文部省が発表。

23(土)●長野県信濃町でバスが川に転落。一五人死亡。
●フィリピンのマルコス大統領、戒厳令を布告。

24(日)●森永乳業社長、初めて砒素被害者に直接謝罪。

25(月)●田中首相、大平外相と中国を訪問(~30日)。

26(火)●プロ野球阪急の福本豊、一〇五盗塁の世界新。

27(水)●電機五社、電機労連に定年六〇歳延長を回答。
●大相撲で貴ノ花と輪島が大関に昇進する。

28(木)●美濃部知事、自衛隊観閲式に参加する戦車の都道通行を不許可(10月、47年かぎり許可)。

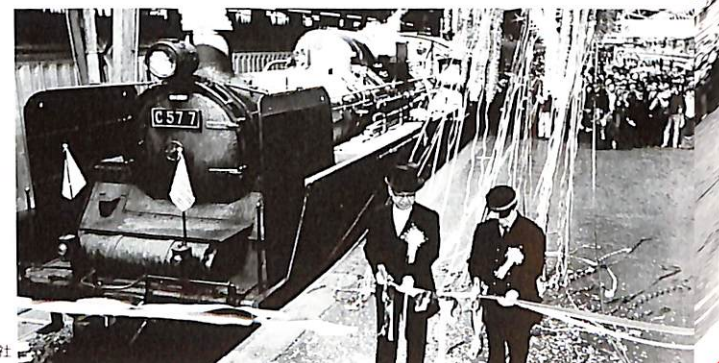
29(金)●田中首相と周恩来中国首相、日中共同声明に調印。国交回復なる。台湾は対日断交を宣言。

30(土)●山形県で発掘のマンモスの歯が偽物と判明。

◀中ピ連、デモ行進(10月15日)ピンクのヘルメットに♀のマークをつけた女性たちが、優生保護法改悪阻止、中絶・ピルの全面解禁を求めて銀座通りを行進し、道行く人たちを驚かせた。

▼フィリピンに元日本兵(10月19日)ルバング島で現地の警察官と銃撃戦となり、小塚金七元一等兵が死亡、同行の小野田寛郎元少尉は逃亡した。写真は、小塚元一等兵の遺体と対面する両親。

松本路子

▶不動産学校が盛況(10月12日)宅地建物取引主任者をめざす東京・新宿の不動産専門学校では、取得試験を1ヵ月後に控えたこの日、400人収容の教室が満員で、7台のテレビが備えられた。田中首相登場以来の土地ブームを反映して、「脱サラ」の姿が目立った。

朝日新聞社

読売新聞社

◀自衛隊観閲式に3万人の観衆(10月29日)明治神宮外苑の国立競技場前で行われ、隊員6500人が参加。戦車、自走砲、ナイキ、ホークなど、4次防の主役となる新兵器を、パレードで披露した。

▶汽笛一声から1世紀(10月14日)新橋と横浜で開業して100年目のこの日、各地で記念行事が行われた。写真は東京駅の式典で体操の金メダリスト加藤沢男(右)が出席した。

読売新聞社

読売新聞社

昭和47年10月

1(日)●運転初心者マーク(若葉マーク)制度実施。

2(月)●国際交流基金発足。対日理解の促進が目的。

3(火)●自動車総連結成。会長に塩路一郎を選出。
●中央公害対策審、排ガス五〇年規制案を答申。

4(水)●宮内庁、皇室行事の鴨猟の狩猟方法を改定。

5(木)●国家公安委、パチンコ玉三円への値上げ了承。

6(金)●那覇市で自衛隊配備反対の県民総決起大会。

7(土)●自宅に二歳と三歳の兄弟を四日間放置、仮死状態にさせた宇都宮市の母親を出先で逮捕。

8(日)●ジャコビニ・チンナー流星雨、日本で初観測。

9(月)●政府、第四次防衛力整備計画を決定する。
●人気スポーツ一位はボウリングと総理府調査。

10(火)●東京で重度身障の息子を絞殺した老人が自首。

11(水)●本田技研、排ガス五〇年規制値をクリアしたCVCCエンジン搭載の試作車を公表する。
●陸自那覇駐屯地と空自那覇基地が正式に発足。

12(木)●初の日豪閣僚委員会、キャンベラで開催。

13(金)●日教組、『教育黒書』発表。市販テストを批判。

14(土)●国鉄、全国各地で「鉄道百年記念行事」を開催。

15(日)●リブ団体が全国で優生保護法改悪反対のデモ。

16(月)●都が日照権問題でビル建設の指導要綱を決定。

17(火)●香川県漁連と製紙七二社、公害調停で和解。
●韓国朴大統領、非常戒厳令を布告。

18(水)●大型鉄鋼株の急騰で東証が立会時間を短縮。

19(木)●ルバング島で警官と元日本兵が銃撃戦。

20(金)●大蔵省、為替管理強化を決定。円投機を抑制。
●環境庁、美ケ原ビーナスラインの建設不認可。

21(土)●不破共産党書記局長、米軍嘉手納弾薬庫に毒ガス爆弾を貯蔵、と政府に点検と撤去を要求。

22(日)●三菱重工長崎造船所に世界最大のドック完成。

23(月)●北大のアイヌ文化陳列ケースと、旭川の「風雪の群像」がほぼ同時に爆破される。
●歌舞伎の尾上菊之助、七代目菊五郎を襲名。

24(火)●海外旅行が三年連続して三割増と運輸省報告。

25(水)●政府、輸入の拡大など第三次円対策を決める。

26(木)●TBSテレビ「ありがとう」の視聴率が五三・八パーセントで、NHKの「藍より青く」を抜く。

27(金)●住友・朝日両生保、個人保険の加入上限を一億円から一億五〇〇〇万円に。

28(土)●中国からパンダ(カンカンとランラン)到着。

29(日)●岡崎嘉平太代表、日中覚書貿易協定に調印。

30(月)●日航と全日空が四九年導入のエアバスを発表。

31(火)●那覇防衛施設局、貸借拒否の反戦地主一五一人に、米軍用地として強制使用すると通告。

◀**三菱重工反戦株主会主催の米軍基地ツアー（11月19日）**80人が参加して首都圏の基地めぐりをした。一行は会のシンボル、ドクロの面をかぶり、米軍の相模原補給廠前で記念撮影をした。

朝日新聞社

▼**パンダ一般公開（11月5日）**開園前から3000人が列を作り、600人の係員が整理にあたったが、2時間並んで見物時間は平均50秒という短さだった。下の写真はカンカン。

東京動物園協会提供（下も）

朝日新聞社

▶**メーデー事件、20年目の決着（11月21日）**27年のメーデー事件で起訴され、45年の一審で有罪となった100人が上告していた。東京高裁は騒乱罪を認めず一審判決を破棄、84人に無罪、16人に公務執行妨害で有罪とした。双方とも上告せず判決は確定した。

読売新聞社

▲**女優の岡田嘉子、34年ぶりに帰国（11月13日）**昭和13年杉本良吉とソ連に亡命した岡田がソ連で結婚した滝口新太郎の遺骨とともに里帰り。左から岡田、俳優の宇野重吉・夏川静枝。

▶**日航機、モスクワで墜落（11月28日）**東京へ向けシェレメチェボ空港を飛び立ったＤＣ8型機が、離陸直後に墜落・炎上。62人が死亡、14人が救助された。

読売新聞社

昭和47年11月

1（水）●がんの子供を守る会、健保適用外の先端治療を受けるための特別療養費援助制度を発足。
2（木）●北海道の石狩炭鉱でガス爆発。三一人死亡。
3（金）●グアム島から二月に生還の横井庄一が結婚。
4（土）●在日米軍、日本人一一二五人の解雇を通告。
5（日）●国民総背番号制の導入に反対し、プライバシーを守る中央会議が東京で結成総会を開く。
●上野動物園でパンダ公開。二万人弱が見物。
6（月）●北陸トンネル内で列車炎上。三〇人死亡。
7（火）●消防庁、都内の消防署望楼の廃止方針を決定。
8（水）●革マル派、早大構内で早大生をリンチ殺害。
9（木）●総評などが主催の初の年金メーデーを実施。
10（金）●四日市公害病患者、補償額の受諾を決定。
11（土）●都電五系統が廃止され、荒川線だけが存続。
12（日）●電話料金の度数制廃止、三分単位の時分制に。
13（月）●廃棄物海洋投棄規制条約に六〇ヵ国が仮調印。
●ソ連に亡命した女優の岡田嘉子が一時帰国。
14（火）●東証一部の出来高が初めて一〇億株を超える。
15（水）●環境庁、絶滅寸前の二八種を特殊鳥類に指定。
●横須賀が空母「ミッドウェー」の母港に決まる。
●「せまい日本そんなに急いでどこへ行く」が、四八年度の交通安全標語に決まる。
16（木）●焼津市の東名高速で国鉄バス事故。二人死亡。
17（金）●ＩＬＯ、生産性運動などの不当労働行為問題で日本政府と国鉄に批判的な最終報告を採択。
18（土）●運輸省、七〇〇〇キロの新幹線網構想を発表。
19（日）●列島改造ブームで大都市の地価急騰と新聞に。
20（月）●東京地裁、無断写真合成は著作権侵害としてマッド・アマノに慰謝料支払いを命ずる。
21（火）●東京高裁、メーデー事件（27年）に逆転無罪。
●大学進学率が東京都四九・九%、青森県一四・一%で地域格差が拡大、と文部省。
22（水）●第三次円対策で関税の一律二〇%引き下げ。
23（木）●埼玉県妻沼町でグライダーが墜落。二人死亡。
24（金）●大蔵省、円対策で海外旅行の外貨持ち出し枠の撤廃など、為替制度の緩和措置を実施。
25（土）●二四五人の南米移住者、「ぶらじる丸」で出航。
26（日）●全逓、反マル生闘争の収拾を決定。
27（月）●山形地裁、専売公社職員に争議権認める判決。
28（火）●日航機がモスクワで墜落。六二人死亡。
29（水）●本田技研、トヨタへＣＶＣＣ技術を供与。
30（木）●福井地裁、刑法の尊属殺人罪を違憲と判決。
●宮本共産党委員長、党綱領の「プロレタリアート独裁」を「執権」に、と発表（48年に実施）。

朝日新聞社

▼**排ガスが一段と厳しく（12月6日）**運輸省は、規制の厳しい重量規制を採用。窒素酸化物などの絶対量の大幅な削減としたため、各メーカーは対応に苦慮した。写真は検査を受ける大型車。

毎日新聞社

▲**1000万円の宝籤に1万人の列（12月21日）**1000万円2本が人気で、東京・後楽園の特設売り場には、2日前から徹夜組を含む1万人が、大阪では阪急百貨店前の売り場に二重三重の行列ができた（写真）。

CORBIS・BETTMANN／PPS

▲**雪のアンデス山中で2ヵ月生存（12月22日）**ウルグアイの墜落機の乗客45人のうち、ラグビーチームの16人が奇跡的に救助された。死んだら遺体を提供という盟約で、数体を食べて生き抜いた。

▼**一条さゆりに懲役1ヵ月（12月6日）**ストリップの猥褻性が争われていた裁判で大阪地裁は、サービスのゆきすぎとして有罪判決。写真は一条さゆりの舞台。

日刊スポーツ

▶**史上最高の売り上げ、ボーナスサンデー（12月10日）**歳暮商戦のピークを迎えたこの日、東京・日本橋の三越本店では史上初の23億円の売り上げを記録した。

共同通信社

読売新聞社

◀**タイで日本製品排斥運動（12月22日）**日本企業の急激な進出と貿易不均衡に対し日本に支配されると、タイの全国学生センターは不買運動を展開した。写真はタイ大丸前で日本製品を焼く学生たち。

昭和47年12月

1（金）●東京高裁、辰野事件（27年4月）で自白の信用性を否定し、一二被告全員に無罪判決。
●羽田空港で機内への手荷物を一人一個に制限。
2（土）●名古屋市の東名高速で一三台追突。二人死亡。
3（日）●国際選抜体操競技大会開催の愛知県体育館で仮設スタンドが崩落。観客一三人が負傷。
4（月）●大学教員一人当たりの学生数は国立八・三人、私立三一・五人、と文部省の学校基本調査。
5（火）●那覇市、自衛隊員の新規住民登録を停止。
6（水）●日本企業の進めた英国のウエストヒル・ゴルフクラブ買収が英国人会員の反発で中断。
7（木）●ソウル高裁、在日韓国人・徐勝を無期懲役に。
8（金）●ＮＨＫ、過去最高地価で東京放送会館を売却。
9（土）●江戸川競艇で五艇接触事故。客が放火騒ぎ。
10（日）●第三三回総選挙（自民二七一、共産第三党へ）。
11（月）●国連総会、日本などの国連大学創設案を可決。
12（火）●読売新聞（大阪）に暴力団員乱入。一一人負傷。
13（水）●厚生省、麺類などのタール系人工着色料禁止。
14（木）●東京都、車椅子使用者のため全都道の一万八三〇〇ヵ所で、交差点などの段差解消を決定。
●広島高裁、一審死刑の仁保事件（29年）に無罪。
15（金）●米シアーズ・ローバック社が西武グループと提携し、日本でカタログ販売に進出と発表。
16（土）●横浜市営地下鉄一号線開業。出改札を自動化。
17（日）●国連生計費調査で、物価指数は東京が世界一。
18（月）●大阪市立淀川中学で廃油缶爆発。一四人負傷。
19（火）●中央公害対策審、新幹線暫定騒音基準を答申。
20（水）●最高裁、不当な裁判遅延は違憲と、高田事件（27年6月）の被告二八人全員を免訴。
●雇用審、六〇歳定年制と週休二日導入を答申。
21（木）●江東区議会、杉並区のゴミ搬入拒否を決議。
●神戸地裁、フグ中毒の死者も過失二割と認定。
22（金）●第二次田中「挙党一致」内閣が発足。
23（土）●東京・新宿歌舞伎町で「夜の歩行者天国」実施。
24（日）●公選法違反で起訴の秋田市長にリコール成立。
25（月）●東京地裁、別居の妻に生活保護申請を認める。
26（火）●全国農協連と日本生活協同組合連が提携強化。
27（水）●厚生省の母乳汚染研究班、全国母乳調査で六七〇例の全検体からＰＣＢを検出と報告。
28（木）●厚生省が四七年の人口概況を発表。二〇五万人が出生し、第二次ベビーブームが始まる。
29（金）●マリアナなどの戦没者遺骨九〇九九体が帰着。
30（土）●東京・山谷で初の労働者越冬キャンプ。
31（日）●銀行が初の大晦日休業を実施。

俄楽多市

◀週刊「漫画アクション」3月1日号から連載開始された、「同棲時代」（作・上村一夫）。

流行語

ニヒルなキャラクターで人気

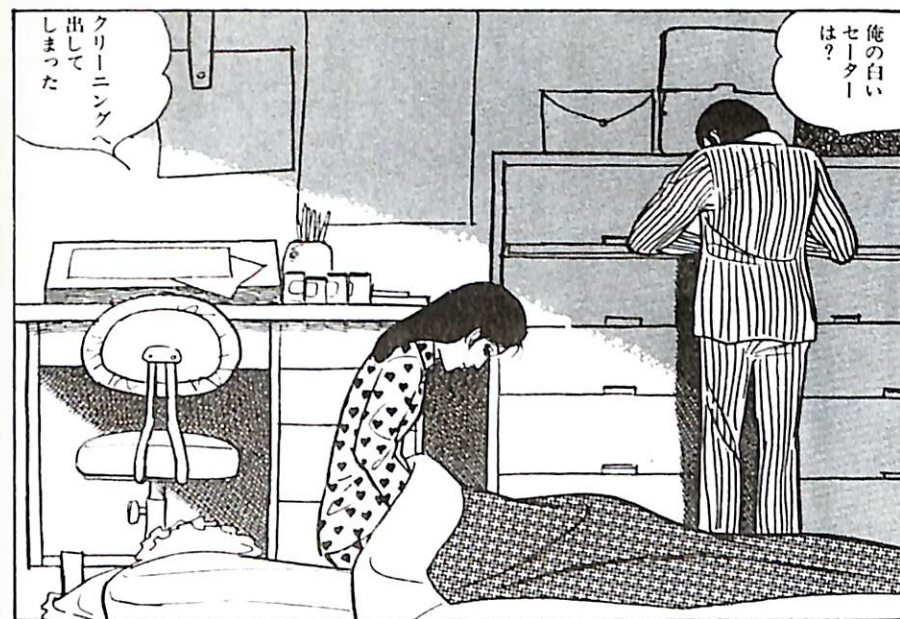
「あっしにはかかわりのねエことでござんす」。この年一月、笹沢左保の小説『木枯し紋次郎』がフジテレビでドラマ化され、迫力ある殺陣と紋次郎のニヒルなキャラクターで人気を集めた。そのニヒルさのシンボルがこの台詞。紋次郎（中村敦夫）が長さ五寸の爪楊枝をくわえながら、「あっしには……」という姿に若い女性はしびれ、シラケ世代の男性は社会に無関心な自分の生き方をダブらせて共鳴した。紋次郎の生地、上州新田郡三日月村は架空の地名だが、昭和五五年四月、群馬県新田郡薮塚本町が「歴史の里、三日月村」として名乗りをあげた。

「ワレメちゃん」。女の子の陰部の名称。この年七月刊行の幼児向け性の絵本『なぜなの、ママ』（北沢杏子著）で用いられてから広まった。

「お客様は神様です」。歌手・三波春夫の言葉。「東京五輪音頭」などで国民的歌手となった三波が満面に笑みをたたえ、照れもせずにこの文句を言ったことが、逆に受けて「○○は神様です」などと使われた。

流行

ブドウ園まであるレンタル農園盛況

「格安で自然を貸します」というレンタル農園が流行している。草分けは東京・世田谷の「桜丘レジャー農園」で、六年前、農家が人手不足から始めたところ大好評、以来、満員盛況を続けている。

それにあやかろうと、山梨県塩山市には今年、「塩山レンタルブドウ園の会」が、信州湯田中には「信州リンゴ友の会」がオープンした。ブドウ園は一〇アールで一年二八万円と少々高いが、そのかわり手入れはいっさい貸し手の方でやりますというサービスつき。リンゴ園はスターキングが一本二万円、国光一万三〇〇〇円とサラリーマンにも手頃な値段。

大阪では高島屋が小豆島とタイアップ、一区画二万円で売り出し、飲み屋のおかみに人気という。

（「週刊新潮」九月九日号）

レジャー

税関の検査を逃れるため、ダイヤを足の指にはめた人

今年海外で正月をすごした日本人は五万人。買いあさった舶来品は五〇億円。しかもあんまり買いあさりすぎて税関でひっかかり、徴収された税額は、一月一〇日までに史上空前の一億二〇〇〇万円にのぼった。

密輸品の筆頭はダイヤと貴金属で、税関の検査を逃れるために、ダイヤを足の指にはめた人も。一番ひどかったのは、時価六〇〇万円のダイヤの指輪三個をポマード容器や下着に隠し、税関を通ろうとしたヨーロッパ帰りの中年男で、一八〇〇万円の罰金を払う羽目に。

ポルノは雑誌や写真類にかわって、映画フィルムが全盛。六日には、段ボール箱に八ミリフィルム五〇巻（五〇万円）を詰めてきた男性が御用となり、全巻没収された。税関職員はこのフィルムの検閲だけで、丸一日かかったという。

（「毎日新聞」一月一三日）

データ

ハネムーナーは六九二一組「京王プラザ」の一年

日本最初の超高層ホテル「京王プラザ」がオープンして一年。この一年を振り返ると、こんな数字が。

泊まり客、三八万四六五五人。うち新婚カップル六九二一組。

使われたトイレットペーパー、八万六四八三ロール、五〇一五キロ。

（「毎日新聞」六月七日）

CM100年　タレント・佐藤允

◀月刊「面白半分」（野坂昭如編集長）七月号は、伝・永井荷風作「四畳半襖の下張」を掲載、六月二二日警視庁に摘発された。

三面記事

戦争を"知りたい"高校生

〔水戸発〕茨城県高教組が「茨城の高校教育白書」を発表した。一五〇〇人の教師、一万三〇〇〇人の高校生にアンケート調査を行ったもので、注目を集めたのが、「徴兵制が敷かれたら」という質問に対する答え。「召集されたら仕方がないので行く」三二パーセント、「国のためだから喜んで行く」五・二パーセントで全体の四割近くが徴兵制承認派。「絶対行かない」四八パーセントと、かなり接近した数字になった。この結果に「教え子を戦場に送るな」をモットーにしてきた同教組は、びっくりするやらガックリするやら。

（「いはらき」二月一五日）

美女倶楽部　伴田良輔・選

この年「カメラ毎日」に連載された沢渡朔の写真は、翌年写真集『NADJA 森の人形館』としてまとめられた。恋する二人の旅の記憶という設定で、巻末におさめられたNADJAの手紙が胸を打った。写真が私的エロスの世界を追求した時代の名作。

きづかないまま妻の死体と一週間同居

〔長野発〕妻が殺され、押し入れの右側の布団の下に隠されているのに、左側から布団を出し入れしながら一週間もきづかないという事件が、長野県宮田村であった。

殺されたのは藤山良明さん（三一）の妻・奈美子さん（二二）。一週間前から姿が見えなくなったので、実家に帰ったのだろうと思っていたが、帰っていないことがわかって捜していたところ、押し入れの布団の下で首を絞められて殺されているのを発見したという。届けを受けた駒ケ根署では、毎日布団を出し入れしながら一週間もきづかないことがあるかと、だいぶ良明さんを調べたが、まったく不審な点がないことから、そういう偶然があったと結論した。

（「信濃毎日新聞」七月一〇日）

一〇〇〇万円盗まれ被害届けは二四万円

〔京都発〕京都市に住む独身女性店員（四二）が、二四万円盗まれたと桂署に届け出た。ところが犯人を捕まえた際、被害額は一〇二三万円にのぼることが判明。この女性によると、金は二二歳の時から二〇年間にわたって家政婦、仲居、店員などをしながらコツコツと貯めてきたものだが、正直に言うと親類や世間から何を言われるかわからないと"過小申告"したという。なお、泥棒の方は、あまりの大金にびっくりして、半分を友人に分けようとしたため、それ以上に驚いた友人が桂署に届け出て犯行がバレた。

（「サンケイ新聞」一〇月八日）

鈴木幸輝

▲Vサインで「ピース!」。6月、東京の蒲田で。

セックス

老人の性の実態調査 八〇代で四割がOK

この年、東京・中野保健所の大工原秀子さんが、老人の性の実態調査を行った。まず自分がケースワーカーとして接する老人の調査から始めて、東京、北海道、愛知まで足をのばして五一〇人の老人（六〇歳以上）のナマの声を集めた。

その結果によると、男子老人一九〇人中、一〇四人がセックスしたいと望み、まだ勃起する人は一三九人、八〇代でも四一パーセント以上がセックス可能なくらいに勃起すると答えた。これに対して女性（平均年齢七一・五歳）に、「濡れることがありますか」と質問したところ六五人が回答したが、内訳は「濡れる」という女性、四人、「濡れない」が五一人だった。

極端なバラつきがあったのは性行為の回数で、六〇歳の男子で八年以上なしという人もいれば、八六歳で週二回、挿入・射精も可能というつわものもいる。この男性、今はもっぱら奥さんを相手にしているが、他の女性との交際も望んでいるという。

（大工原秀子著『老年期の性』ミネルヴァ書房）

▲10月14日、郵政省は「鉄道100年記念切手」を発売。

この年の初もの

カラー複写機を、日立製作所が開発

●ファッション・コーディネーター　松坂屋に登場。

●DIY（DO IT YOURSELF）の店　埼玉県与野市に。

●閏秒　七月一日、日本時間午前八時から九時までの一時間が、世界一斉に一秒延ばされる。

世界の動き

日本赤軍も関与！国際テロが尖鋭化
テルアビブ空港とミュンヘン五輪「血の惨劇」

一九九七年二月一八日、日本赤軍のメンバー五人が、レバノンの治安当局に身柄拘束されていることが判明した。なかでも岡本公三は、四半世紀前の一九七二年、テルアビブのロッド空港で自動小銃を乱射した一人である。同じ年、ミュンヘン五輪の真っ最中にもイスラエル選手用の宿舎がパレスチナ・ゲリラに襲撃された。

▲銃声、手投げ弾の爆発音、悲鳴と絶叫が交錯する数十秒間に、血の海と化した待合室。犠牲者の約半数は、アメリカ国籍のプエルトリコ人だった。 UPI・サン／共同通信社

日本人コマンドが旅客を銃と手投げ弾でなぎ倒す

五月三〇日、イスラエルのロッド空港は血の海と化した。パリ発のフランス航空機にローマ空港から搭乗した日本赤軍の岡本公三（二四）、奥平剛士（二六）、安田安之（二六）の三人が、空港到着後、税関カウンター前で突然、AK47自動小銃を乱射。

弾丸を撃ち尽くしたあと、再び弾をこめ、ガラス越しに出迎えの人や航空券を買う乗客でごったがえしていた待合室に向けて撃ちまくり、次々と手投げ弾を投げつけた。この乱射と手投げ弾で、二六人が死亡、七三人が重軽傷を負った。

この後、奥平は手投げ弾が壁にあたって跳ね返り、自分のすぐそばで爆発して死亡。安田も、同士討ちの弾で死亡した。残る岡本公三は、税関から空港内に飛び出し、航空機に向けて小銃を乱射した後、手投げ弾を投げつけたが不発。逃げ出したところを、取りおさえられた。

逮捕された岡本公三は、同年七月一七日、イスラエル軍事法廷で終身刑の判決を受けたが、一九八五年五月二〇日、イスラエルとパレスチナ解放人民戦線総司令部との捕虜交換で釈放された。

中東問題研究家の佐々木良昭・拓殖大学教授はこう語る。

「当時のアラブの民衆は相当にフラストレーションをためこんでいたんです。第三次中東戦争（一九六七年）に大敗北した結果、アラブ各国は広大な領土をイスラエルに奪われてしまった。その後、ファタハ（パレスチナ民族解放運動）を率いるアラファトがPLO（パレスチナ解放機構）の議長になったものの、アラブ各国政府や米ソの影響から抜けきれずに、政治的には負けたまま。一方、経済

◀七月一〇日から始まった軍事裁判で、終身刑の判決を下された岡本公三。 WWP

▼人質とともに選手村にたてこもるパレスチナ・ゲリラが、黒マスク姿でバルコニーに姿を見せた。 読売新聞社

外から見たNIPPON

奔放な〝民衆芸術家〟シケイロスの日本文化批判

——佐伯 修

今世紀初頭のメキシコ革命の闘士にして古参共産党員、抑圧された民衆の解放と反西欧物質文明を旗印に制作を続けてきた、メキシコ画壇の長老、ダビッド・アルファロ・シケイロス（一八九六〜一九七四）は、この年の六月一二日、東京での「シケイロス展」開催に合わせて来日した。

彼は、岡本太郎、草野心平ら日本の文化人から大歓迎を受け、展覧会もまずは盛況だった。

東京を「定められたワクの中でもがきあっている都市だ」とひとことで斬り、奈良、京都に突入したシケイロスは、法隆寺を「総合芸術」として絶賛、しかし「こんな力強い芸術を生んだ日本人がいつから小さな美しい芸術家になったのだ。現代の職人や彫刻家は何をしている」と、今日にいたるその後の日本の芸術、文化を厳しく批判した。

また、かつてブルーノ・タウトが評価した桂離宮の庭園では、錦鯉の泳ぐ池をさして「私ならサメを放つ」と言い放った。

「美しさのための美しさは素直でなく、結局ほんとうのものではないのである。要するに空虚なのだ。法隆寺も平等院も焼けてしまっていっこうに困らぬ」（「朝日新聞」七月四日）

かつて「革命的職業画家・彫刻家・版画家組合」を組織、目もさめるような色彩と、群衆が躍動する、巨大な壁画を生んできた〝民衆芸術家〟の面目躍如というべき豪快な言行の数々であった。

しかし、解放や正義、そして力強さへの礼讃といった、彼のひたすら明るさの方へ向いているかに見える生涯には、一点だけ、底知れぬ暗黒がある。それは、トロツキー暗殺未遂事件である。

スターリンにソ連を追われたロシア革命の指導者の一人、レオン・トロツキーは、長い流転の亡命生活のすえ、メキシコに落ち着くが、一九三九年五月、武装した一団に自宅を襲撃される。男たちは数百発の銃弾を夫妻の寝室などに撃ちこみ、幼い孫娘の子ども部屋にも手投げ弾を投げこんだ。一家の人々は奇跡的に無傷だったが、護衛一人が拉致され、死体で見つかっている。

この暗殺団のリーダーがシケイロスだった。そして、トロツキーは、翌年、新たなスターリンの刺客に惨殺される。

はたしてシケイロスの「民衆」には、生かされるべき民衆と、「民衆の敵」として抹殺されるべき民衆との、二種類があったのだろうか？ 来日中も「民衆」という文句が連発されていただけに、気になるのである。

▶晩年はメキシコ共産党の指導者だったシケイロス。 朝日新聞社

状況もひどくて生活は苦しい。そんな時、日本赤軍がイスラエルの表玄関ともいうべきテルアビブ空港を襲撃したんです」

このテルアビブ空港テロ事件は、アラブ・ゲリラの主流派だったPLOの方針にあきたらず、新たに組織されたパレスチナ解放人民戦線（PFLP）の犯行だった。日本赤軍はそのコマンド（戦闘員）としてゲリラ作戦を敢行したのだ。

アラファト議長に反目していたのはPFLPだけではなかった。中でも、最も尖鋭的だったのが「黒い九月」と名乗るパレスチナ・ゲリラ組織だった。

この組織名の由来は、一九七〇年九月の〝ヨルダン内乱〟にさかのぼる。第三次中東戦争後、PLOはヨルダン国内に基地を確保したが、次第に勢力を広げ、フセイン国王を無視するようになった。これに対抗するため、国王はヨルダン軍にPLOの弾圧を命じて内乱となったのだ。この戦闘でPLO側は多数の死者を出し、生き残ったものの大半がレバノンへと逃げこんだ。「黒い九月」という名には、この時の怨念が刻まれている。

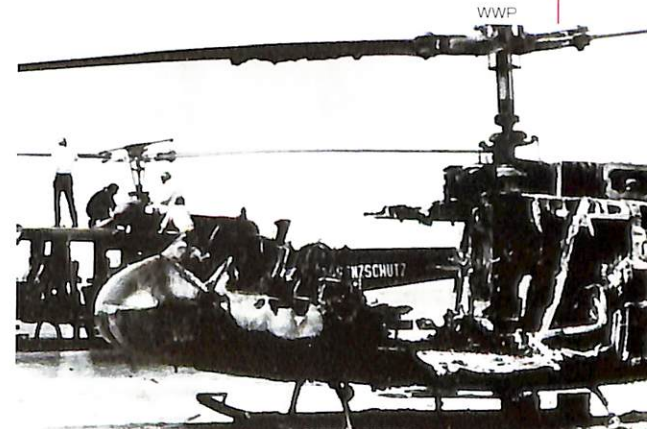
ミュンヘン五輪宿舎を強襲した「黒い九月」

ミュンヘン五輪大会九日目の、この年九月五日午前六時（現地時間）、その「黒い九月」のコマンドがイスラエル選手団宿舎を強襲。その場にいたイスラエルの選手とコーチ二人を殺害し、九人を人質に取り、人質と引き換えにイスラエル国内に拘留されているアラブ人二〇〇人の釈放と自分たちのドイツからの無事脱出を要求した。

対ゲリラ交渉の総括責任者となったゲンシャー内相らとの再三にわたる交渉のすえ、午後一〇時、西独陸軍差しまわしのバスでゲリラと人質が、用意された三機のヘリコプターに分乗。フュルステンクェルトブリュック空港に到着して数分後に、警官隊とゲリラとの銃撃戦となった。この時、ゲリラ側の手投げ弾で二機のヘリが爆破され、中にいた人質九人全員が死亡。ゲリラ側も五人が死亡し、三人が逮捕された。

前出の佐々木教授は、今でもイスラエル選手団宿舎の窓から見えた、黒マスクをしたゲリラの姿を伝えるテレビ映像を鮮明におぼえていると言う。

「ゲリラたちの目的は、アラブ・パレスチナ問題があることを国際社会にアピールすることと、自分たちの力の誇示でした」

だが、目的のためには手段を選ばぬ過激な路線に、国際世論の大勢は反発。さらにイスラエル政府を激怒させ、ゲリラ基地のあるシリア、レバノンが報復爆撃される結果を招いた。

WWP
▲ゲリラ側の手投げ弾で爆破され炎上したヘリ。

往きて還らぬ

◀1月27日 マヘリア・ジャクソン(60)
歌手。黒人霊歌（ゴスペル・ソング）の第一人者。ケネディ大統領の就任式では、国歌を歌った。

▼1月1日 モーリス・シュバリエ(83)
シャンソン歌手。カンカン帽と蝶ネクタイのスタイルで人気を集め、「昼下りの情事」など数々の映画にも出演した。

▲4月16日 川端康成(72)
小説家。東大在学中にデビュー。代表作は『伊豆の踊子』『雪国』など。昭和43年ノーベル文学賞受賞。ガス自殺した。

▲5月28日 小汀利得(82)
元日本経済新聞社社長。大正10年日経社の前身、中外商業新報社に入社。テレビにも出演、毒舌評論家として活躍。

▲5月1日 ジョン・E・フーバー(77)
元FBI長官。29歳から48年間長官をつとめ、司法長官もアンタッチャブルな独立組織を築き上げた。

▲10月4日 東海林太郎(73)
歌手。トレードマークの不動の姿勢で、「赤城の子守唄」「国境の町」「麦と兵隊」など数々のヒットをとばした。

▲2月17日 平林たい子(66)
小説家。プロレタリア作家としてデビュー。『かういふ女』で第1回女流文学賞受賞。ほかに『地底の歌』など。

▲3月2日 鏑木清方(93)
日本画家。「一葉」など肖像画も手がけ、新しい美人画に新境地を開いた。文筆家としての声価も高い。

▲5月8日 伊東深水(74)
日本画家。看板屋の住みこみから出発し、昭和2年「深水画塾」を主宰。美人画が本領。女優の朝丘雪路は娘。

▲10月22日 柳家金語楼(71)
落語家。「兵隊落語」で人気を集め、新作落語も数多く作った。また金語楼劇団を結成、喜劇俳優としても活躍。

新華社／中国通信社
▲2月15日 エドガー・スノー(66) ジャーナリスト。中国の共産党解放地区に外国人として初めて入り、その成果を『中国の赤い星』として発表、世界的名声を得た。

共同通信社
▲5月28日 ウインザー公(77)
イギリスの元国王。シンプソン夫人との〝世紀の大恋愛〟で退位。結婚後はバハマ諸島の総督に。

▲12月26日 ハリー・トルーマン(88)
元アメリカ大統領。第2次大戦の終戦から戦後にかけてアメリカをリード。反共主義者として知られた。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第8号 3月25日(火)発売 定価550円
毎週火曜日発売 講談社 (本体534円)
消費税率変更にともない、表示の定価が変更になる場合があります。

1980[昭和55年]

●特集
涙で歌った「さよならの向う側」一〇月五日、日本武道館で山口百恵引退／自動車生産、年間一一〇〇万台突破！ 世界一になった日本の"喜び"と"重圧"／親殺しにまで発展した家庭内暴力「金属バット殺人事件」の衝撃／戒厳令下の弾圧！ 韓国・光州事件の"真相"

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…政府、モスクワ五輪不参加を表明(2月1日)／銀座で一億円を拾得(4月25日)／大平首相、急死(6月12日)／静岡の地下街でガス爆発(8月16日)／ポーランドで「連帯」公認(8月31日)／王貞治、現役引退(11月4日)／ジョン・レノン射殺(12月8日)

●人物クローズアップ
向田邦子、名脚本家から直木賞作家に

●決定的瞬間
「ワシントン富士」大噴火の驚異

●美の出会い
東山魁夷、唐招提寺障壁画を完成

●女たちの肖像…中山千夏、参議院選で当選／勝者・敗者…張本勲、三〇〇〇本安打達成／証言・あの日この日…松本清張、森茉莉／20世紀博物館…日本カメラ博物館(東京都・千代田区)／「現場」を歩く…冷泉家「古文書」の今／外から見たNIPPON…ユルスナールの「ミシマ」論

●ベストセラー…『蒼い時』と『わッ毒ガスだ』／スターと名場面…黒澤明「影武者」、松田聖子デビュー／モノ語り'80…健康志向飲料「ポカリスエット」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ特別定価290円(本体282円)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。 申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号(2月18日号)1959[昭和34年]
好評発売中●世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！ わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の"歴史的"訪米

第2号(2月25日号)1964[昭和39年]
好評発売中●東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

第3号(3月4日号)1945[昭和20年]
好評発売中●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆！ 死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

第4号(3月11日号)1970[昭和45年]
好評発売中●三島由紀夫、割腹自殺！●EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

第5号(3月18日号)1963[昭和38年]
好評発売中●ケネディ暗殺事件！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた"昭和の巌窟王"

第6号(3月25日号)1958[昭和33年]
好評発売中●巨人軍・長嶋茂雄デビュー！●若者にロカビリー旋風●流通革命！スーパー・ダイエー1号店●ド・ゴール、仏大統領に就任

■今後の刊行予定

第9号(4月15日号)1976[昭和51年]
4月1日発売●角栄逮捕！政界に激震●山下家に五つ子ちゃん誕生●サービス革命！「クロネコ」走る●毛・周死去、文革がようやく終わる

第10号(4月22日号)1989[平成元年]
4月8日発売●昭和天皇ご大喪！●吉野ケ里発掘と邪馬台国論争●消費税3パーセント、混乱と不安のスタート●中国で天安門広場の惨劇

▶**第11号**(4月29日号)1960[昭和35年]**4月15日発売**
"安保"で国内騒然●所得倍増計画発表●清張ブーム●コンゴ独立の悲劇
▶**第12号**(5月6日号)1961[昭和36年]**4月22日発売**
ガガーリン、宇宙へ●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正熙、権力の座に
▶**第13号**(5月13・20日号)1962[昭和37年]**4月28日発売**
モンロー謎の死●「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●YS11が翔ぶ
▶**第14号**(5月27日号)1965[昭和40年]**5月13日発売**
「11PM」放映開始●日韓条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶**第15号**(6月3日号)1966[昭和41年]**5月20日発売**
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革
▶**第16号**(6月10日号)1967[昭和42年]**5月27日発売**
ツイッギー来日●リカちゃん人形発売●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶**第17号**(6月17日号)1968[昭和43年]**6月3日発売**
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶**第18号**(6月24日号)1969[昭和44年]**6月10日発売**
日本、GNP世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶**第19号**(7月1日号)1941[昭和16年]**6月17日発売**
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる
▶**第20号**(7月8日号)1942[昭和17年]**6月24日発売**
ミッドウェー海戦●朝鮮人ら強制連行●戦争映画の隆盛●ユダヤ人虐殺

ミニ事典
1972年のキーワード

日米政府間繊維協定
日本の繊維製品の対米輸出を三年間にわたって自主規制する協定。一月三日、ワシントンの国務省で調印。伸び率を毛一〇パーセント、人造五・二パーセントに抑制することになった。交渉はアメリカの厳しい姿勢で二年半の間、難航したが、政府は繊維業界の反対を押し切って調印にこぎつけた。

公害防止事業費事業者負担法
国や地方自治体が公害防止事業を行う際に、責任のある企業に対して費用負担の割合を決めた法律。前年の五月一〇日に施行され、この年の一月二九日、静岡県公害対策審議会が田子ノ浦のヘドロ処理に対して初めて適用した。公害に対して行政責任も認めているため、企業負担が軽すぎるとの批判もあった。

日米渡り鳥保護条約
相互の領土間を往復する渡り鳥や、絶滅の危機にある鳥類を保護するために結ばれた条約。三月四日に日米間で、アジア初の動植物保護の国際条約として調印。渡り鳥一八九種の捕獲と卵採取の禁止、絶滅寸前のトキやコウノトリなど七四種の輸出入規制などが定められた。後に旧ソ連、オーストラリア、中国ともそれぞれ条約が結ばれた。

水俣病患者自主交渉派
水俣病患者のうち、川本輝夫氏を中心とするグループ。前年に結成、チッソとの補償交渉を公害等調整委に委任せず、チッソの責任を厳しく追及、前年末から東京・丸の内のチッソ本社前にテントを設けて座りこみを続け、五百余日目の昭和四八年七月に交渉を成立させた。また補償交渉だけでなく、患者救済や新患者認定なども積極的に行った。

朝日新聞社
▶チッソとの直接交渉で「金より体を」と社長に詰め寄る自主交渉派。

公安三課
警察庁警備局に設けられた過激派対策専門の部署。五月一日に新設された。従来公安一課が受け持っていた過激派の情報収集や捜査を、専門的立場から指導する。前年一二月には警務部長・土田国保邸への小包爆弾事件や、新宿の交番を襲ったツリー爆弾事件、この年二月には「浅間山荘」事件と、過激派がらみの事件が相次いでいた。

買い物公園
商店街の路上に設けられる恒久的な歩行者天国。六月一日、北海道・旭川市の平和通りに日本で初めて誕生した。一日一万台が走る自動車を締め出した駅前から七条までの約一キロの通りに、花壇、噴水、彫刻、休憩所などが作られ、両側にはマルカツ、丸井、西武などの大型店舗が並んだ。おもなねらいは、道路を人間に取り戻すことと、商店街の活性化だった。

北海道新聞社
◀旭川市に誕生した買物公園。初日は五〇〇〇人の市民が繰り出した。

東洋医学研究所
東洋と西洋の医学を結合させ、総合化させることを目的に東京の北里研究所が設けた研究組織。六月二七日に東京・大手町のホテルで設立総会が開かれた。東洋医学再評価の気運にこたえ、西洋医学を基礎にして、鍼灸・漢方薬による療法を行い、またその科学的解明をめざした。

日本星空を守る会
工場群の照明や繁華街のネオンなどで見えにくくなった星空を取り戻そうと、全国のアマチュア天文家が結成した団体。七月二九日、東京・本郷に一五〇人が集まり、第一回全国大会を開催した。都市の「光害」が、天体観測だけでなく生命現象を支える一日の明暗のリズムをそこなっている、として光害追放を訴えた。

国際交流基金
積極的に海外文化との交流を行うことで、日本に対する海外の理解を深めることを目的に設立された、外務省所管の特殊法人。政府・民間が五〇億円ずつ出資して一〇月二日発足した。初代理事長は今日出海。日米関係の悪化やアジア諸国からの軍国主義復活批判などにこたえるもので、各国の日本研究への援助や、学者・芸術家・スポーツマンの派遣や招待などを行った。

優生保護法改正案
優生保護法に規定された人工妊娠中絶の許可理由から、おもに「経済的理由」を削除しようとする改正案。中年リブなど婦人団体が一〇月一五日、東京・札幌・大阪・福岡で同時に反対デモを実施。かえって違法中絶がふえ、中絶自由化や人口抑制の流れに逆行するというのがその理由だった。政府は昭和四七年から三回にわたって国会にこの改正案を提出したが、ついに成立しなかった。

松本路子
▶優生保護法の改正に反対し、乳母車を先頭にデモ行進をするリブの団体。

藤木訴訟
別居中の夫からの送金がとだえた長期療養中の女性が、離婚しないかぎり生活保護の申請はできないとされたため、その取り消しを求めた訴訟。東京地裁は一二月二五日、生活保護法の世帯とは、生活・居住を同一にする生活上の単位との判断を示して、原告が勝訴。妻の別居・入院地での申請を認め、「血の通う福祉行政を」と述べた。被告の武蔵村山市は上告を断念した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1972 CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石川文洋 鈴木幸輝 但馬一憲 野上透 浜口タカシ ヒュン・コン・ウット 平野美津子 松本路子 朝日新聞社 沖縄タイムス 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 時事通信社 新華社 中国通信社 日刊スポーツ 便利堂 北海道新聞 PPS 毎日新聞社 読売新聞社 WWP 面白半分 松竹 東京動物園協会 東宝 にっかつ 日本コロムビア 明日香村教育委員会 文化庁

雑誌 23701-4/1 T1023701040556
Ⓛ-2001/1/1
定価550円

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社